

履修案内

2021年度
入学者用

2021年度
入学者用

履修案内

外国語学部

外国語学部

Faculty of Foreign Studies

英語学科

中国語学科

観光交流文化学科

杏林大学



杏林大学

KYORIN UNIVERSITY

履修案内について

この『履修案内』は、入学時に、一人一冊配布されます。
常時、この冊子を身近なところに大切に保管し、十分に活用してください。

◆履修案内は、杏林大学外国語学部における履修について、杏林大学学則、本学部の諸規程、および別冊『HANDBOOK』記載の事項はもとより、それらに明示されていない細則や事項を解説したものです。

◆このガイドブックに記載されている内容は、いずれも、杏林大学外国語学部在籍する学生にとって重要なものばかりですので、学生諸君は、オリエンテーション等の際にはこの冊子を必ず持参してその内容をしっかりと理解するよう努めてください。

◆以下の記載事項については、オリエンテーション、各種のガイダンス、および掲示等を通じて、追加・変更・訂正がなされることもあるので、注意してください。

<2021年度 外国語学部学年暦>

【春学期】		
2021年	3月29日(月)～4月3日(土)	オリエンテーション
	4月4日(日)	入学式
	4月5日(月)	授業開始
	4月3日(土)～4月12日(月)	履修登録期間
	4月24日(土)～5月6日(木)	履修中止制度手続き期間
	7月22日(木)	授業終了
	7月27日(火)～8月4日(水)	定期試験期間
	8月5日(木)～9月14日(火)	夏季休暇
	8月19日(木)～8月24日(火)	追・再試験期間
	9月13日(月)	卒業式(9月)

◎ 春学期 休日授業日

7月22日(木) (木曜授業実施)

◎ 春学期補講日 (やむを得ず授業が休講となった場合の振替日。時限や教室は別途掲示)

5月29日(土) 午後	6月19日(土) 午後	7月3日(土) 午後
7月26日(月) 終日		

【秋学期】		
2021年	9月15日(水)	オリエンテーション
	9月16日(木)	秋学期授業開始
	9月16日(木)～9月24日(金)	履修登録
	10月7日(木)～10月14日(木)	履修中止制度手続き期間
	10月22日(金)～10月25日(月)	学園祭(準備・後片付けを含む/休講)
	11月11日(木)	創立記念日
	12月29日(水)～1月3日(月)	冬季休暇
2022年	1月4日(火)	授業再開
	1月19日(水)	授業終了
	1月20日(木)～1月31日(月)	定期試験期間
	2月16日(水)～2月22日(火)	追・再試験期間

※日程については、変更する場合があります。

◎ 秋学期 休日授業日

9月20日(月) (月曜授業実施)

◎ 秋学期 振替授業日

1月5日(水) (月曜授業実施)

◎ 秋学期補講日 (やむを得ず授業が休講となった場合の振替日。時限や教室は別途掲示)

10月30日(土) 午後	11月27日(土) 午後	12月27日(月) 終日
12月28日(火) 終日	1月4日(火) 終日	1月14日(金) 終日

<2021年度オフィスアワー一覧>

教員氏名	曜日	実施時間帯	教員氏名	曜日	実施時間帯
赤嶺 恵理	水	12:10～13:00	ジャスティン	掲示	12:10～13:00
荒川みどり	月	12:10～13:00	シャルボワ	確認	
嵐 洋子	火	12:10～13:00	高木眞佐子	木	12:10～13:00
イアンランバート	水	12:10～13:00	田中 洋	木	12:10～13:00
池田 尚広	金	12:10～13:00	千野万里子	金	12:10～13:00
稲垣 大輔	火・水	12:10～13:00	張 弘	月	12:10～13:00
岩本 和良	木	12:10～13:00	鄭 英淑	火	12:10～13:00
宇佐美貴浩	木	12:10～13:00	西山 桂子	木	12:10～13:00
大熊美音子	水	12:10～13:00	野口 洋平	木	12:10～13:00
海谷 千波	金	12:10～13:00	長谷川弘子	月	12:10～13:00
北村 一真	火	12:10～13:00	古本 泰之	木	12:10～13:00
倉林 秀男	木	12:10～13:00	真野 靖久	木	12:10～13:00
小林 輝美	火	12:10～13:00	三牧 史奈	火	12:10～13:00
小堀 貴亮	金	12:10～13:00	森 和	火	12:10～13:00
齋藤 智志	火	12:10～13:00	八木橋宏勇	金	12:10～13:00
坂本ロビン	水	12:10～13:00	安江枝里子	水	12:10～13:00
志村 良浩	木	12:10～13:00	渡邊 俊	月	12:10～13:00

※曜日、時間等の変更が生じた場合は、掲示により連絡します。

《非常勤講師のオフィスアワーについて》

非常勤講師については、原則として授業終了時に教室や非常勤講師控室（D棟1階）にて質問を受け付けています。または、随時、電子メールで質問を受け付ける対応を行っています（但し、その教員がメールアドレスを公開している場合に限りです）。

目次

○はじめに

1 学生の皆さんへ 9

2 建学の精神 9

3 学部（学科）の理念・教育研究上の目的、教育目標 9

 (1) 理念・目的

 (2) 教育目標

I 学位授与、カリキュラムの方針 10

1 外国語学部全体の方針 10

 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

2 英語学科の方針 13

 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

3 中国語学科の方針 17

 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

4 観光交流文化学科の方針 21

 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

注意事項について 24

 (1) 事務取扱時間について

 (2) 教務課からの連絡について

 (3) オリエンテーションについて

 (4) 問い合わせについて

 (5) 教員との連絡について

 (6) その他

II 授業 26

1 学期制

2 授業期間

3 授業時間

4 授業の出席

5 授業の欠席

6 休講

7 補講

8 悪天候や災害等による授業や試験の取り扱い	
Ⅲ 単位と科目	29
1 単位制度	
2 単位の計算方法	
3 配当学期次	
4 授業科目	
5 科目区分	
6 科目ナンバリング	
Ⅳ 履修	32
1 履修登録	32
(1) 履修登録の制度	
(2) 履修単位数の上限	
(3) クラスの指定について	
(4) 再履修について	
(5) ゼミナールの履修について	
(6) 卒業論文・課題指導の履修について	
2 履修登録の手続き	33
(1) 履修方法	
(2) 履修登録の流れ	
(3) 履修登録における注意	
3 履修中止制度	35
Ⅴ 単位認定	36
1 単位認定制度について	
(1) 各制度の内容	
(2) 外国の教育機関への留学について	
(3) 外国の教育機関への留学（海外研修）の履修について	
(4) 大学コンソーシアム八王子加盟大学間単位互換について	
(5) インターンシップの履修について	
(6) アドバンストブレイスメントに関する単位認定について	

Ⅵ 試験	38
1 試験の種類	38
(1) 平常点・平常試験	
(2) 定期試験	
(3) 追試験	
(4) 再試験	
2 試験に関する一般的な注意事項	40
(1) 受験資格についての注意事項	
(2) 試験実施にあたっての注意事項	
(3) 受験にあたっての注意事項	
3 レポート提出に関する注意事項	41
Ⅶ 成績	42
1 成績評価・表記	
2 GPA制度について	
3 成績発表	
4 成績評価の問い合わせについて	
5 学期末日程について	
Ⅷ 卒業と進級	45
1 卒業の要件	45
(1) 学科別の必修科目及び選択必修科目の科目数並びに単位数	
(2) 転・編入生の卒業要件について	
2 進級の条件	46
(1) 通常の進級条件	
(2) 留学期（留セメスター）	
(3) 進級できなかった場合の科目履修	
Ⅸ 授業科目	
英語学科	
① 外国語科目 A	47
② 外国語科目 B	48
③ 基盤教育科目	49
④ 教養科目	51
⑤ 専門科目	52
⑥ 関連科目	54

中国語学科	
① 外国語科目 A	55
② 外国語科目 B	56
③ 基盤教育科目	57
④ 教養科目	59
⑤ 専門科目	60
⑥ 関連科目	61
観光交流文化学科	
① 外国語科目 A	62
② 外国語科目 B	63
③ 基盤教育科目	64
④ 教養科目	66
⑤ 専門科目	67
⑥ 関連科目	68
X 規程	69
○杏林大学外国語学部履修規程	
○杏林大学外国語学部転学科規程	
XI 教職課程、地（知）の拠点整備事業、APプログラム（高大接続）について	75
1 教職課程（英語学科のみ）	
2 地域を舞台とした学び	
3 APプログラム（日英中トライリンガル育成のための高大接続）について	
UNIVERSAL PASSPORT利用の手引き	82

はじめに

1 学生の皆さんへ

外国語学部長 坂本 ロビン

今日から杏林大学・井の頭キャンパスの生活が始まります。大学生活では多くの教職員や先輩、後輩、同級生と素晴らしい未来をつくる様々なチャンスが生まれると思います。あらゆることにチャレンジしてみてください。そうすれば自分の夢が見えてくるでしょう。しかし、その夢は美しい夢でなければなりません。夢を持つだけではなくその美しい夢を信じるのが大切です。この冊子を井の頭キャンパス最初の一年の履修計画を立てるのに十分活用して頂き、皆さんの素晴らしい未来、そして美しい夢を実現するための第一歩として頂ければ幸いです。

2 建学の精神

杏林大学の建学の精神は「真・善・美の探究」です。

「真・善・美の探究」を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成することが、本学の教育理念です。

3 学部（学科）の理念・教育研究上の目的、教育目標

(1) 理念・目的

外国語学部の理念・目的は、外国語の習得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な外国語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することです。

① 英語学科は、英語の高度な運用能力と広範な背景的知識の獲得、ならびに非言語的表現も含めたコミュニケーション能力の開発に取り組み、これらを通じて、将来の予測が難しい時代を生き抜く力と専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的としています。

② 中国語学科は、グローバル化の進展と中国語圏を中心とするアジア地域の発展に伴い、求められる実践的な中国語運用能力の開発と地域の社会・文化に関する知識の修得により、高度な中国語コミュニケーション能力を有するとともに、国際社会における相互理解を促進し、新たな協力の創造に寄与できる人材を養成することを目的としています。

- ③ 観光交流文化学科は、豊かで健全な社会生活に欠かすことのできない楽しみのための移動と滞在、それにとまなうホスピタリティと人びとの交流について、観光学の学びを通じて多様な視点からその価値を捉え、持続的な観光の発展と交流文化の創造を先導する人材を養成することを目的としています。

(2) 教育目標

正しい異文化理解に基づく21世紀型世界市民の育成を目指し、実践的かつ高度な外国語運用能力、問題解決能力、良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力や社会人を身につけた人材を養成する。

I 学位授与、カリキュラムの方針

1. 外国語学部全体の方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。

(1) 高度な外国語運用能力

- 母語だけではなく少なくとも一つの外国語（英語または中国語）を実践的かつ高度に運用できる。

(2) コミュニケーション能力

- グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。

(3) 問題解決能力

- 知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、情報分析能力・データ分析能力を活用した客観的分析と柔軟な発想によって問題・課題を解決することができる。

(4) 自己表現力・情報発信力

- 他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な主張を展開することができる。

(5) 異文化理解とグローバル人材力

- 幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と適切な正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

(6) 高い倫理観と社会的責任遂行能力

- グローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。

(7) 専門的な知識・技術・技能と活用力

- 実社会の中で必要な基礎専門能力を修得し、それを発展的に活用することができる。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

(1) 教育内容

(1-1) 高度な外国語運用能力を修得するために

- 各学科における主要な外国語（英語または中国語）の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、それぞれの外国語科目の必修科目と選択科目を設置する。

(1-2) コミュニケーション能力を修得するために

- 外国語運用能力拡充の基盤形成のために、学科の主要外国語以外の外国語科目として、「中国語Ⅰ～Ⅳ」（中国語学科を除く）「韓国語Ⅰ～Ⅳ」「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」「フランス語Ⅰ～Ⅳ」「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」を配置する。
- グローバル社会で通用する対人コミュニケーション力を涵養するため、「コミュ

ニケーション概論」「異文化コミュニケーション論」「ホスピタリティ・コミュニケーション」を配置する。

(1-3) 問題解決能力を修得するために

- 学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的に問題点・課題点を発見する知的習慣の形成を可能にするために、「大学入門」を配置する。
- 多角的に問題を解決する能力の基礎を身に付けるために、「テーマで学ぶ現代社会Ⅰ～Ⅲ」を配置する。
- 現代社会における現象や問題を量的アプローチにより分析し、解決策を導くことができる能力を陶冶するために、「データサイエンス」「データリテラシー」を配置する。さらにこの能力を強化するために、「統計学」を設置する。
- 自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」(または「卒業論文・プロジェクト指導」)を配置する。

(1-4) 自己表現力・情報発信力を修得するために

- 日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「アカデミックライティング」を配置する。
- 日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化演習」を配置する。
- 各学科の専門教育を通して学修した知識や技能を表現・発信する「卒業論文・課題指導」(または「卒業論文・プロジェクト指導」)を配置する。

(1-5) 異文化理解とグローバル人材力を修得するために

- グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識と適切な異文化理解を深めるため、「異文化コミュニケーション」「地域圏研究Ⅰ～Ⅲ」「ダイバーシティ論」を配置する。

(1-6) 社会的責任遂行能力を修得するために

- 地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「サービ斯拉ーニングⅠ・Ⅱ」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」を配置する。
- 将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。

(1-7) 専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために

- 各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた応用的な専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。
- 個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。

(2) 教育方法

(2-1) グローバル社会での適応能力を修得するために

- グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。

(2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- 問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

(2-3) 社会的責任遂行能力の修得のために

- グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング（社会学修）を積極的に導入する。

(2-4) 高度な外国語運用能力を修得するために

- 外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL（Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

(3) 成果の測定

(3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA（Grade Point Average）で評価する。

(3-2) 外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。

(3-3) 大学IRコンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

2. 英語学科の方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部英語学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（文学）の学位を授与する。

(1) 高度な外国語運用能力

- 英語を高度かつ実践的に運用することができると同時に、英語圏の文化・歴史・社会などに関する背景的な専門知識の修得や、実社会における英語の有効な活用方法とそれが求められる職業諸分野についての理解の深化を通して、英語による言語コミュニケーション能力全般を向上させることができる。

(2) コミュニケーション能力

- ・母語と英語の運用能力だけでなく、他言語および非言語コミュニケーション能力も向上させることを通じて、グローバル社会における良好な対人関係を主体的に築くことができる。

(3) 問題解決能力

- ・自ら問題・課題を発見し、情報分析能力・データ分析能力を活用した客観的分析と、既存の思考法にとらわれない柔軟な発想によって、その問題・課題を解決することができる。

(4) 自己表現力・情報発信力

- ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な主張を展開することができる。

(5) 異文化理解とグローバル人材力

- ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と適切な正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

(6) 高い倫理観と社会的責任遂行能力

- ・グローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。

(7) 専門的な知識・技術・技能と活用力

英語をグローバル社会で必要不可欠な言語として修得するとどまらず、学術の対象としても学び、そうした専門知識と知的教養を実社会で応用することができる。

■教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

外国語学部英語学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

(1) 教育内容

(1-1) 高度な外国語運用能力を修得するために

- ・高度な英語運用能力を修得するために、必修科目・選択科目・選択必修科目を設け、学年・学期別の科目配置を行う。
- ・高度な英語運用の基盤形成のために、「英語Ⅰ～Ⅳ」を配置する。
- ・実践的な英語運用能力を修得するため、「目的別英語演習Ⅰ～Ⅵ」「目的別英語演習・上級Ⅰ～Ⅳ」「英語発音聴取」「英語文献購読Ⅰ・Ⅱ」「Integrated EnglishⅠ・Ⅱ」を配置する。
- ・高度な英語運用能力の修得に不可欠な背景の専門知識の導入のために「英語の世界」および「コミュニケーションと人間」を必修科目として配置する。

(1-2) コミュニケーション能力を修得するために

- ・外国語運用能力拡充の基盤形成のために、英語に加え、「中国語Ⅰ～Ⅳ」「韓国語Ⅰ～Ⅳ」「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」「フランス語Ⅰ～Ⅳ」「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」を選択科目として設置する。
- ・グローバル社会で通用する対人コミュニケーション力を涵養するため、「コミュニケーション概論」「異文化コミュニケーション」「ホスピタリティ・コミュニケーション」を設置する。併せて、コミュニケーションに関する専門的知識の修得とその実践的応用を目的として、「異文化コミュニケーション特論」「異文化交流」「社会言語学」も設置する。

(1-3) 問題解決能力を修得するために

- ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的に問題点・課題点を発見する知的習慣の形成を可能にするために、必修科目として「大学入門」を配置する。
- ・多角的に問題を解決する能力の基礎を身に付けるために、「テーマで学ぶ現代社会Ⅰ～Ⅲ」を配置する。
- ・現代社会における現象や問題を量的アプローチにより分析し、解決策を導くことができる能力を陶冶するために、「データサイエンス」「データリテラシー」を必修科目として配置する。さらにこの能力を強化するために、「統計学」を設置する。
- ・専門科目によって養ってきた、自ら問題・課題を発見し解決する能力を更に高めるため、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」および「卒業論文・課題指導」を必修科目として配置する。

(1-4) 自己表現力・情報発信力を修得するために

- ・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「アカデミックライティング」を配置する。
- ・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化演習」を配置する。
- ・外国語による自己表現力・情報発信力を高めるため、「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」「Communication Strategies」「Writing Strategies」を配置する。

(1-5) 異文化理解とグローバル人材力を修得するために

- グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識と適切な異文化理解を深めるため、「異文化コミュニケーション」「地域圏研究Ⅰ～Ⅲ」「ダイバーシティ論」を配置する。さらに、英語の専門的知識・技能を養いながらこうした教養や理解を強化する目的で、異文化理解をテーマとして扱う「目的別英語演習Ⅲ・Ⅳ」や「異文化交流」を配置する。
- グローバル社会そのものの現状と成り立ちや課題についての適切な認識に基づき、グローバル人材として飛躍する契機を得るために、英語を使って国際理解を深めることを目指した「目的別英語演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。

(1-6) 社会的責任遂行能力を修得するために

- 地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「サービスマナーⅠ・Ⅱ」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」を配置する。
- 予測不可能な将来を見据えて自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、英語による言語コミュニケーション能力を実社会において応用する方法や、その力が求められる職業諸分野についての理解の導入としての「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」や実践を通じて学修する「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。

(1-7) 専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために

- 基礎的な専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、必修科目と選択科目を設け、学年・学期別の科目配置を行う。
- 基礎的な英語運用能力の学修に加え、それらをさらに強化し、専門性を高めるために「英語文法Ⅰ・Ⅱ」「目的別英語演習Ⅰ～Ⅵ」「目的別英語演習・上級Ⅰ～Ⅳ」を配置する。
- 英語学、英米文学、異文化理解の三分野の専門能力を修得するために、「英語学演習Ⅰ～Ⅴ」「英語学特論Ⅰ～Ⅴ」「英語文学特論Ⅰ・Ⅱ」「米文学特論Ⅰ・Ⅱ」「表象文化論Ⅰ・Ⅱ」「西洋的思考と哲学」の科目を配置する。
- 個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」および「卒業論文・課題指導」を必修科目として配置し、学科の学びの集大成とする。

(2) 教育方法

(2-1) グローバル社会での適応能力を修得するために

- グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。

(2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- 問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

(2-3) 社会的責任遂行能力の修得のために

- グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング（社会学修）を積極的に導入する。

(2-4) 高度な外国語運用能力を修得するために

- 英語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL（Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

(3) 成果の測定

(3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA（Grade Point Average）で評価する。

(3-2) 外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。

(3-3) 大学IRコンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

3. 中国語学科の方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部中国語学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（中国語コミュニケーション学）の学位を授与する。

(1) 高度な外国語運用能力

- 中国語を高度かつ実践的に運用することができる。

(2) コミュニケーション能力

- 母語と中国語の運用能力だけでなく、他言語および非言語コミュニケーション能力も向上させることを通じて、グローバル社会における良好な対人関係を主体的に築くことができる。

(3) 問題解決能力

- 知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、情報分析能力・データ分析能力を活用した客観的分析と柔軟な発想によって問題・課題を解決することができる。

(4) 自己表現力・情報発信力

- 他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な主張を展開することができる。

(5) 異文化理解とグローバル人材力

- 幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と適切な正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

(6) 高い倫理観と社会的責任遂行能力

- グローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。

(7) 専門的な知識・技術・技能と活用能力

- ビジネス一般や文化交流の現場あるいは通訳・翻訳などの語学専門職として通用するのに十分な中国語コミュニケーション能力に加え、中国語圏を主とするアジアにおけるビジネス・文化交流の場で通用する基礎知識を修得し、それを活用することができる。

■教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

外国語学部中国語学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

(1) 教育内容**(1-1) 高度な外国語運用能力を修得するために**

- 高度な中国語運用能力を修得するために、必修科目・選択科目・選択必修科目を設け、学年・学期別の科目配置を行う。
- 実践的な中国語運用能力を高めるため、「インテンシブ中国語Ⅰ～ⅩⅥ」を配置する。
- 高度な中国語運用能力を修得するため、「中国語特別演習Ⅰ～Ⅳ」、「中国語発音

矯正Ⅰ・Ⅱ」「中国語演習Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

(1-2) コミュニケーション能力を修得するために

- 外国語運用能力拡充の基盤形成のために、中国語に加え、「英語Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」を必修科目として、「韓国語Ⅰ～Ⅳ」「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」「フランス語Ⅰ～Ⅳ」「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」を選択科目として設置する。
- グローバル社会で通用する対人コミュニケーション力を涵養するため、「異文化コミュニケーション」「ホスピタリティ・コミュニケーション」を設置する。

(1-3) 問題解決能力を修得するために

- 学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的に問題点・課題点を発見する知的習慣の形成を可能にするために、「大学入門」を配置する。
- 多角的に問題を解決する能力の基礎を身に付けるために、「テーマで学ぶ現代社会Ⅰ～Ⅲ」を配置する。
- 現代社会における現象や問題を量的アプローチにより分析し、解決策を導くことができる能力を陶冶するために、「データサイエンス」「データリテラシー」を配置する。さらにこの能力を強化するために、「統計学」を設置する。
- 専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。

(1-4) 自己表現力・情報発信力を修得するために

- 日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「アカデミックライティング」を配置する。
- 日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化演習」を配置する。
- 中国語による自己表現力・情報発信力を高めるため、「中国語プレゼンテーション」「中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。

(1-5) 異文化理解とグローバル人材力を修得するために

- グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識と適切な異文化理解を深めるため、「異文化コミュニケーション」「地域圏研究Ⅰ～Ⅲ」「ダイバーシティ論」を配置する。
- 多様な価値観の認識と適切な異文化理解を深め、グローバル人材として飛躍する契機を得るために、「日中比較文化論Ⅰ・Ⅱ」「中国の思想」「中国の歴史」を配置する。

(1-6) 社会的責任遂行能力を修得するために

- 地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「サービスマーケティングⅠ・Ⅱ」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」を配置する。
- 予測不可能な将来を見据えて自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂

行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。

(1-7) 専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために

- 各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた応用的な専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。
- ビジネス・文化交流の現場あるいは通訳・翻訳などの語学専門職として必要とされる高い中国語運用能力を修得するために、「中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」「中国語通訳法Ⅰ・Ⅱ」「中国語翻訳法Ⅰ・Ⅱ」「日中通訳・翻訳Ⅰ・Ⅱ」「中国語プレゼンテーション」を配置する。
- 中国語圏を主とするアジアで相互理解を促進しつつ、ビジネス・文化交流を展開するのに必要な地域の社会・文化の基礎知識を修得するために、「地域研究入門」「中国語圏研究」「中国文学史Ⅰ・Ⅱ」「中国の政治・経済」「近代中国と日本Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
- 個別テーマに関する専門的な知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。

(2) 教育方法

(2-1) グローバル社会での適応能力を修得するために

- グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。

(2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- 問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

(2-3) 社会的責任遂行能力の修得のために

- グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング（社会学修）を積極的に導入する。

(2-4) 高度な外国語運用能力を修得するために

(3) 成果の測定

(3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA（Grade Point Average）で評価する。

(3-2) 外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。

(3-3) 大学IRコンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

4. 観光交流文化学科の方針

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部観光交流文化学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（観光交流文化学）の学位を授与する。

(1) 高度な外国語運用能力

- 母語と英語を、観光・ホスピタリティ分野において実践的かつ高度に運用できる。

(2) コミュニケーション能力

- 母語と英語の運用能力だけでなく、他言語および非言語コミュニケーション能力も向上させることを通じて、グローバル社会における良好な対人関係を主体的に築くことができる。

(3) 問題解決能力

- 知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、情報分析能力・データ分析能力を活用した客観的分析と柔軟な発想によって問題・課題を解決することができる。

(4) 自己表現力・情報発信力

- 他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な主張を展開することができる。

(5) 異文化理解とグローバル人材力

- 幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と適切な正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

(6) 高い倫理観と社会的責任遂行能力

- 自らの社会的使命を自覚し、高い倫理観に基づいて多様化する価値観を受容しながら、地域社会等で周囲をマネジメントし、リーダーシップを持って社会的責任を積極的に果たすことができる。

(7) 専門的な知識・技術・技能と活用力

- 観光・ホスピタリティに関する基礎知識に加え、ビジネス・地域社会の人的交流を通じた発展を適切に促進させるための専門知識を修得し、それを活用すること

ができる。併せて、医療・保健衛生の基礎知識を踏まえたウェルネスを志向する観光形態に関する専門知識を修得し、それを活用することができる。

■教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学部観光交流文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

（1）教育内容

（1-1）高度な外国語運用能力を修得するために

- 英語を主要な外国語とし、その実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、必修科目の「英語Ⅰ～Ⅷ」に加え、学部共通選択科目の「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」「英語特別演習Ⅰ・Ⅱ」や専門科目の「Tourism EnglishⅠ・Ⅱ」「観光実用英語インテンシブⅠ・Ⅱ」を配置する。

（1-2）コミュニケーション能力を修得するために

- 外国語運用能力拡充の基盤形成のために、英語以外の外国語科目として、「中国語Ⅰ～Ⅳ」（中国語学科を除く）「韓国語Ⅰ～Ⅳ」「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」「フランス語Ⅰ～Ⅳ」「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」を配置する。
- グローバル社会で通用する対人コミュニケーション力の基礎を涵養するため、「コミュニケーション概論」「異文化コミュニケーション論」「ホスピタリティ・コミュニケーション」を配置する。併せて、コミュニケーションに関する専門的知識の修得とその実践的応用を目的として、「ホスピタリティ入門」を必修科目として、「ファシリテーション実習」「観光手話Ⅰ・Ⅱ」を選択科目として配置する。

（1-3）問題解決能力を修得するために

- 学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的に問題点・課題点を発見する知的習慣の形成を可能にするために、「大学入門」を配置する。
- 多角的に問題を解決する能力の基礎を身に付けるために、「テーマで学ぶ現代社会Ⅰ～Ⅲ」を配置する。
- 現代社会における現象や問題を量的アプローチにより分析し、解決策を導くことができる能力を陶冶するために、「データサイエンス」「データリテラシー」を配

置する。さらにこの能力を強化するために、「統計学」を設置する。

- 自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「観光基礎演習」「観光調査法」を必修科目として、「ホスピタリティ・ビジネス演習」「地域型プロジェクト演習」「卒業論文・プロジェクト指導」を選択科目として配置する。

（1-4）自己表現力・情報発信力を修得するために

- 日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「アカデミックライティング」を配置する。
- 日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化演習」を配置する。
- 国際社会や地域社会における観光の位置づけについて学修した知識や技能を表現・発信する、「観光コンテンツデザイン実習」「卒業論文・プロジェクト指導」を選択科目として配置する。

（1-5）異文化理解とグローバル人材力を修得するために

- グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識と適切な異文化理解を深めるため、「異文化コミュニケーション」「地域圏研究Ⅰ～Ⅲ」「ダイバーシティ論」を配置する。
- グローバル社会において観光がどのような役割を果たすことが求められているかを理解するため、「現代社会と観光ホスピタリティ」を必修科目として、「交流文化論」を選択科目として配置する。

（1-6）社会的責任遂行能力を修得するために

- 地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「サービスマーケティングⅠ・Ⅱ」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」を配置する。
- 予測不可能な将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアディベロップメントⅠ・Ⅱ」「キャリアデザインⅢ～Ⅳ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。

（1-7）専門的な知識・技術・技能とその活用能力を修得するために

- 異文化交流及び観光・ホスピタリティ分野に求められる基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。
- 観光・ホスピタリティに関する基礎知識及び能力を修得するために、「観光学入門」を1年次必修科目として配置した上で、「観光心理学」「観光地理学」「観光マーケティング論」「航空産業論」「観光まちづくり論」などの専門選択科目を2年次以降に配置する。
- 主にホスピタリティビジネスにおいて求められる基礎知識と、その発展に寄与する専門知識と能力を修得するために、「ホテルオペレーション」や「フードビジネス論」「ホスピタリティ・ビジネス演習」「ホスピタリティ・ビジネス特論Ⅰ・Ⅱ」

を配置する。

- 主に社会における異文化交流の空間をマネジメントする上で求められる基礎知識と、その発展に寄与する専門知識と能力を修得するために、「国際協力と観光」や「エコツーリズム論」「地域リーダーシップ論」「地域創造特論Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
- ウェルネスを志向する観光形態に関する専門知識を習得するため、「健康科学の基礎」「ウェルネスツーリズム論」「福祉観光論」「温泉療養学」「観光衛生論」などの選択科目を配置する。

(2) 教育方法

(2-1) グローバル社会での適応能力を修得するために

- グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。

(2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- 問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

(2-3) 社会的責任遂行能力の修得のために

- グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング（社会学修）を積極的に導入する。

(2-4) 高度な外国語運用能力を修得するために

- 外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL（Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

(3) 成果の測定

(3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA（Grade Point Average）で評価する。

(3-2) 外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。

(3-3) 大学IRコンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

注意事項について

(1) 事務取扱時間について

教務課の事務取扱時間は下記のとおりです。原則として時間外の取り扱いはできません。

平日 9:00～17:15

土曜 9:00～13:00

※日曜、休日は休業です

(2) 教務課からの連絡について

大学から学生への連絡は、掲示・UNIVERSAL PASSPORTによって行います。掲示を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

(3) オリエンテーションについて

学期のはじめに、科目の選択・登録・カリキュラムの内容等、学習活動の手引きとなる各種ガイダンスが行われますので、必ず出席するようにしてください。

(4) 問い合わせについて

授業についての情報や履修に関する相談は、電話では受付できません。必要のあるときは窓口にて質問してください。

(5) 教員との連絡について

①アカデミックアドバイザー・オフィスアワー

杏林大学専任の教員は学内に研究室があります。また、各学生には専任教員の中からアカデミックアドバイザーが1名定められています。

アカデミックアドバイザーは、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援（修学支援、学生生活支援、進路支援等）を行っており、その指導を受ける機会としてオフィスアワーが設けられています。授業科目の履修上の相談をはじめ、学習上の問題点や疑問、学生生活に関する相談には、このオフィスアワーを積極的に活用し、学生生活の充実を図ってください。

また、オフィスアワーの曜日と時間は「オフィスアワー一覧」で確認してください。

②兼任教員（非常勤教員）との連絡方法

非常勤講師については、原則として授業終了時に教室や非常勤講師控室（D棟1階）にて質問を受け付けています。または、随時、電子メールで質問を受け付ける対応を行っています（但し、その教員がメールアドレスを公開している場合に限りです）。

(6) その他

下記については、別冊「HANDBOOK」の該当箇所を参照してください。

①学籍番号、学生証

②キャンパス内の諸施設の利用

Ⅱ 授 業

1 学期制

本学部では学期制（セメスター制度）を採用しています。この学期制とは1年間を単位とした通年授業による学年制とは異なり、半年を単位とする学期（セメスター）ごとに授業が完結するものであり、春学期（春セメスター）と秋学期（秋セメスター）の2つの学期に分かれます。

成績評価は、学期ごとの学修に対して各学期末に与えられることとなります。この学期とは、高校までの1学期、2学期というものとは違い、それぞれが独立・完結したものであり、入学時は第1学期、それから第2～8学期へと必要条件を満たせば進級してゆくこととなります。つまり学期制とは、卒業要件を満たしながら学期（セメスター）を積み重ねることによって卒業するというシステムのことです。

2 授業期間

授業の開始日・終了日、試験期間などについては、「外国語学部学年暦」で確認してください。

3 授業時間

1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10
3 時限	13 : 00 ~ 14 : 30
4 時限	14 : 40 ~ 16 : 10
5 時限	16 : 20 ~ 17 : 50
6 時限	18 : 00 ~ 19 : 30

※注意 このほかに、集中的に授業を行う「集中講義科目」があります。この場合の授業日時、教室については掲示で別途連絡します（授業時間割表では「集中講義」として掲載してあります）。

4 授業の出席

単位を修得するためには、原則として実授業回数の3分の2以上の出席が必要です。

5 授業の欠席

「学校感染症に罹患」「7日以上におよぶ病気・ケガ」「忌引き」「交通機関の遅延」などでやむを得ず授業を欠席した場合は、その事由を明らかにする証明書を持参のうえ、欠席届を提出してください。

これらに該当しない事由で欠席した場合は、担当教員に直接相談してください。

なお、欠席届を提出した場合に、どの程度考慮されるかについては、担当教員により異なるので、直接教員に確認してください。

欠席届を提出する際は、以下の書類を添付してください。

欠席理由	添付する書類
学校感染症に罹患した場合	感染症罹患証明書、医師の診断書
病気、けがで登校不能な場合	医師の診断書
忌引、近親者が重病の場合	会葬礼状（コピー可）または保証人の連署押印した書類
電車・バスの遅延	遅延証明書
事故及び災害	事故・災害を証明する公的機関が発行した書類

- 注) 1 感染症罹患証明書は大学指定の書式、又は医療機関が作成する書式のどちらでもよい。大学指定の書式は以下のURLからダウンロードすること。
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/health/kansen/rikan.pdf>
2 「忌引、近親者が重病の場合」の対象となるのは、2親等以内の親族とする。
3 自家用車・バイクの通学は、すべて本人の責任において行うものとし、事故・渋滞等の理由であっても救済の対象とはならない。
4 遅延による申請の場合は、当日または翌日に受け付ける。
5 授業への遅刻や欠席に関する教員への電話の取り次ぎは行わない。
6 科目により、その他の取り決めがある場合は、その指示を優先する。

6 休 講

やむを得ず授業が休講となることがあります。その場合、原則として授業の休講はUNIVERSAL PASSPORTで告知しますので、始業前に必ず確認してください。

なお、休講の連絡がなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業科目担当教員が出席しない場合は、教務課で指示を受けてください。

7 補 講

補講は春学期と秋学期にそれぞれ設けられている補講日に原則として行いますが、このほかにも特別に行う場合もあります。いずれの場合も掲示をしますので、日時や教室を確かめて受講してください。

8 悪天候や災害等による授業や試験の取り扱い

〈大学からの発表〉

大学HPトップの「重要なお知らせ」に、休講や繰り下げ実施などの情報を掲載しますので必ずご確認ください。

判断要因と目安

以下の要因により学生の登校に大きな支障がでると予想される場合は、休講や繰り下げ実施などの判断をする。

1 小田急バスの運休

- 午前6時時点で運行再開している→1限から授業実施
- 午前9時時点で運行再開している→3限から授業実施
- 午前9時時点でまだ運行再開していない→その日は終日休講

2 電車の運休

中央線（東京・高尾間）、または京王線が不通の場合は、小田急バスの運行停止の場合に準じて対応を決定する。

3 気象警報などの発令

三鷹市に特別警報・大雨警報・大雪警報・暴風雨警報のいずれか1つが発令されている、又は発令が予想される場合等は状況に応じて対応を決定する。

遅延証明書

公共交通機関の遅れの影響を受けた場合は、遅延証明書の取得し手続きを行ってください。

III 単位と科目

1 単位制度

大学では単位制が採用されています。単位制とは、各授業科目に一定の基準によって定められた「単位」があり、各授業科目を所定の方法に従って履修し、試験などで合格の評価を得た者に、その「単位」が与えられる制度のことです。

2 単位の計算方法

「1単位」の授業科目とは、杏林大学学則（第25条）及び大学設置基準（第6章第21条第2項）において、「45時間の学修を必要とする内容をもって構成し、授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮する」と定められています。これは、大学における授業が、単に出席していればよいというものではなく、積極的に参加すべきものであることを明記したものです。

各授業科目の単位は、学則に則って定められています。その所定単位数については、この履修案内の「授業科目」を参照してください。

3 配当学期次

授業科目にはそれぞれ配当学期次が定められています。これは、各授業科目の性質と内容を十分に理解して、それぞれの授業科目を段階的・系統的に学習するために履修できる学期次の配当を定めているものです。なお、この履修案内には、配当学期次のうち履修可能な最初の学期次が記されています。

4 授業科目

本学部の授業科目は、必修科目、選択科目、選択必修科目、自由科目の4つに分かれています。

必修科目	卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目
選択科目	必修科目以外の科目
選択必修科目	選択科目のうち特定の科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目
自由科目	進級・卒業の単位に含まれない科目

必修科目については履修すべき学期次が、選択科目（選択必修科目を含む）については履修できる最初の学期次が、それぞれ指定されています。したがって、選択科目については指定された学期次以上に在籍している学生であれば履修できます。

5 科目区分

本学部の科目区分は、外国語科目、基盤教育科目、教養科目および専門科目に分かれています。

外国語科目	外国語科目はA、Bに分かれ、英語をはじめとする外国語を学びます。Aは1セメスターから履修できる入門レベルの科目、Bは3セメスターから履修できる応用レベルの科目が配置されています。英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語からなり、各学科の必修外国語のほか、自分が学びたい言語を選択し履修することができます。また、日本語を母語としない学生のため、日本語科目も準備されています。
基盤教育科目	基盤教育科目の多くは外国語学部の共通科目で、「学部・学科融合」「データサイエンス」「グローバル」「地域社会」「キャリア」「日本語教育」といった社会で活躍するために必要な知識の基盤を幅広く学ぶための科目です。
教養科目	教養科目は、すべて選択科目で、自分の興味・関心に合わせて1セメスターから履修できる科目です。学びの幅を広げ、専門科目を学ぶうえで必要な知識や考え方の基礎となる科目です。
専門科目	専門科目は、学科別に履修し、専門性を高めていく科目です。1セメスターから体系的に履修でき、将来を見据えた科目の選択ができます。 英語学科 高度な英語運用能力と広範な背景的知識を身に付ける科目と、「英語学」「英語圏文学・文化」「異文化理解・コミュニケーション論」を中心とした科目で構成されています。 中国語学科 高度な中国語運用能力を身に付ける科目と、「中国語学」「中国語圏文化」「通訳・翻訳」を中心とした科目で構成されています。 観光交流文化学科 観光学の基礎科目、「ウェルネスツーリズム」、「ホスピタリティビジネス」、「地域創造」を中心とした科目で構成されています。

6 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、全ての科目にアルファベットと数字を用いたナンバーを付け、授業科目の学修段階や順序等の体系性を明示し、学生がレベルや専門を勘案して

授業科目を履修できることを目的とした制度です。

外国語学部では英字コード3桁と数字コード4桁を組み合わせ、体系的に区分毎の科目の割り振りをしています（シラバスまたは「Ⅹ 授業科目」を参照）。

英字コード	英字名称	内 容
CHN	CHINESE	中国語／中国語系専門／中国語系専門関連科目
ENG	ENGLISH	英語／英語系専門／英語系専門関連科目
FRN	FRENCH	フランス語
GER	GERMAN	ドイツ語
JPN	JAPANESE	日本語／日本語専門／日本語専門関連科目
KOR	KOREAN	韓国語
SPN	SPANISH	スペイン語
GEH	GENERAL HUMANITIES	人文・社会科学系科目
GEN	GENERAL (REQUIREMENTS)	必修専門科目／必修専門関連科目 ※学科共通科目
GES	GENERAL MATH AND SCIENCE	理数系科目
TRM	TOURISM	観光系科目

数字コード	内 容
1***	上1桁「1」⇒ 初級レベル
3***	上1桁「3」⇒ 中級レベル
5***	上1桁「5」⇒ 上級レベル
7***	上1桁「7」⇒ 上級応用レベル
*0**	上2桁 ⇒ 科目分類番号
**00	下2桁 ⇒ 科目ごと個別番号

例) CHN1301

- 科目ごとの個別番号を表します。
- 科目の分類（1外国語A、2外国語B、3基盤教育、4教養、5専門）を表します。
- 科目の難易度（1初級、3中級、5上級、7上級応用）を表します。
- 科目の種類（上記を参照）を表します。

IV 履 修

1 履修登録

(1) 履修登録の制度

各学期次において履修しようとする授業科目については、学期はじめの指定された期日に、所定の方法で履修登録をしなければなりません。履修登録は、学期間の履修計画を立てて、単位を取得する意思を表示する重要な手続きです。この手続きを間違えると、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級ならびに卒業ができなくなる場合もありますので、くれぐれも誤りのないように注意してください。

- ① 履修登録は、各学期において指定された期日に所定の方法に従って行ってください。指定の期日に履修登録がなされなかった場合は、在学の意思がないものとして扱われます。
- ② 履修登録がなされていない授業科目は、履修することができません。たとえ受講したり試験を受けたりしても、採点の対象とならず、単位の認定も行われません。
- ③ 前学期までに修得すべき必修科目のうち不合格のものがある場合は、当該学期に、まず、その科目を再履修するよう、登録しなければなりません。

(2) 履修単位数の上限

- ① 各学期に履修できる単位の上限は22単位です（登録に当たっては、学習時間を考慮し、20単位を目安に登録することが望ましい）。
- ② 単位認定制度により認定を受けようとする科目は（前号の科目より）除きます。
- ③ 前セメスターのGPAが3.5以上の学生は、申請により履修ができる単位の上限を緩和し、24単位まで履修登録を認めることがあります。

(3) クラスの指定について

- ① 外国語科目など授業科目の性質から、適正人数（少人数）で行うためクラスが指定される授業科目があります。時間割表にクラス指定がなされている授業科目の履修については、原則として、指定されたクラス以外での履修は認められません。
- ② 所属クラスは、オリエンテーション時及び学期末に外国語学部が実施する「プレイスメントテスト」の結果に基づき編成されます。なお、指定されたクラスの変更は原則として認められません。

(4) 再履修について

- ① 再履修とは、不合格になった科目を次学期以降に再び履修することをいいます。
- ② 不合格となった科目が必修科目の場合、再履修して単位を修得しなければなりません。
- ③ 時間割表にクラス指定がなされている授業科目の再履修については、指定された再履修用クラスで履修してください。再履修用クラスがない授業科目については、現在の指定されたクラスで履修してください（クラス指定がないセメスター生は教務課に相談してください）。また、いずれの場合も、履修登録前に必ず授業科目担当教員に許可を得てください。授業科目担当教員に無断で登録した場合、履修登録が取り消されることがあります。

(5) ゼミナールの履修について

ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲは、大学での学習活動の仕上げとして位置づけられています。他の授業科目とは、性質ならびに履修の方法が著しく異なるため、履修にあたっては説明会へ出席してその主旨を十分に理解し、所定の手続きをしなければなりません。説明会の開催は掲示により通知します。

(6) 卒業論文・課題指導の履修について

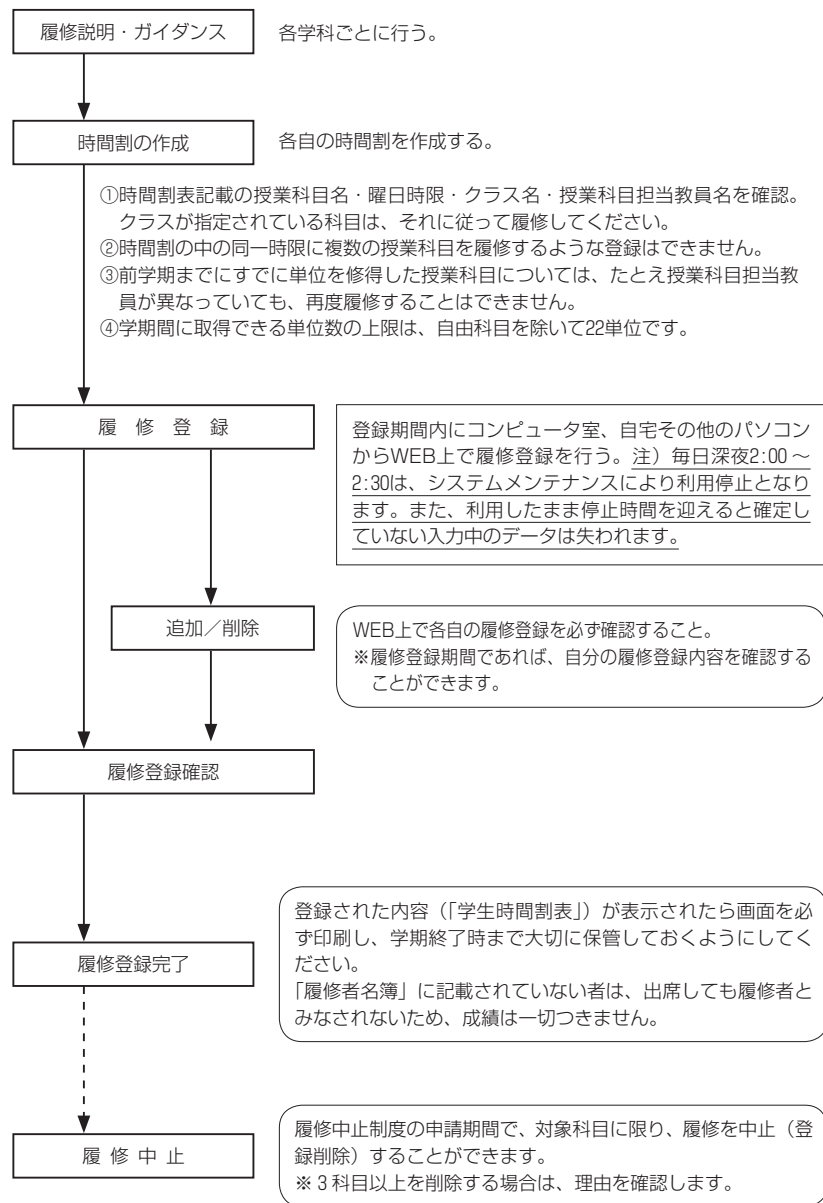
卒業論文・課題指導は、5～6セメスターで進めてきた高度な専門学習を引き続き行なうとともに、『卒業論文』を提出することが求められます。履修希望者はゼミナールの授業科目担当教員に許可を得てください。また、当該科目は、7～8セメスターを通じての科目となるため、必ず7セメスターで履修登録を行ってください（7セメスターに登録をしていない場合、8セメスターからの登録は認められません）。合格すると8セメスター終了時に単位が付与されます。

2 履修登録の手続き

(1) 履修方法

- ① 履修登録は、パソコンからWEB上で登録を行います。「WEB履修登録 操作説明書」を参照して指定される期日に履修登録を行います。
- ② 履修登録に先立ち、各自でしっかりとした年間の履修計画を立てることが必要ですが、その場合、履修方法などについて疑問が生じたときは、アカデミックアドバイザー、教務委員または教務課に相談してください。
- ③ 履修登録は、本人が行ってください。どうしても本人が指定の期日に登録できない場合には、事前に教務課にその旨を届け出て、指示に従ってください。

(2) 履修登録の流れ



(3) 履修登録における注意

履修登録期間は、各学期の授業開始日から1週間を目処に期間が設けられます。出席を重視する授業では、初回から出欠を取りますので、時間割や掲示板を確認のうえ、授業に出席すると同時に登録を行ってください。選択科目も同様の扱いとなりますので、UNIVERSAL PASSPORTに公表しているシラバスをよく確認のうえ、慎重に科目を選んでください。

履修登録を行わなかった場合は、進級・卒業に多大な影響を及ぼすので、登録忘れがないよう注意して下さい。

登録期間の最終日に不測の事態（PCのトラブル）に見舞われ、登録を認められなかったケースが過去にもあります。余裕をもって登録をして下さい。

3 履修中止制度

履修中止制度は、授業に出席してみたものの、授業内容が自分の勉強したいものと違って、授業のスピードについていけないだけの知識が不足していた、自分の履修計画を見直した結果、履修科目数を減らしたい、といった理由で、単位の取得が難しい場合に不合格評価によってGPAが下がることを回避するために、登録した科目の履修を取りやめる制度です。

《中止ができない科目》

- 必修科目は、中止できません。（選択必修科目は除く）
- 一部の他学部との合同科目、他学部履修で登録した科目は、中止できません。
- 教職課程科目、インターンシップ等の科目は、中止できません。
- その他、外国語学部が定める科目についても、中止できません。

《履修中止制度の申請期間は、ガイダンスや掲示で周知します。》

春学期 令和3年 4月24日(土)～ 5月6日(木)

秋学期 令和3年 10月7日(木)～ 10月14日(木)

※原則、授業開始後、最初に4回目の授業が実施される日の前日から起算して、7授業実施日に期間が設けられます。

《手続き方法》

- 所定の申請書類を、教務課に提出して下さい。
- 中止する科目数に上限はありませんが、3科目以上放棄しようとした場合は、理由を確認します。
- 履修中止をした科目の申請は、取り下げることはできません。

V 単位認定

1 単位認定制度について

(1) 各制度の内容

学習の種類等	概要	認定される 単位の上限
入学前の既修得単位等の認定	①既修得単位 本学入学前に他の大学、短期大学または専修学校で修得した単位の認定	62単位
他の大学における授業科目の履修等	②外国の教育機関への留学（3ヶ月以上の留学）	※1
	③外国の教育機関への留学（海外研修） 海外の協定校等に休暇期間中に短期間研修留学し、所定のプログラムを修めたことによる単位の認定	※2
	④大学コンソーシアム八王子加盟大学間単位互換 大学コンソーシアム八王子における加盟大学間単位互換制度による単位の認定	8単位
その他	⑤インターンシップ 企業などにおける実習・研修的な就業体験の成果に対して行う単位認定	3単位
	⑥アドバンストブレイスメント 高等学校、中等教育学校在学中に本学あるいは他大学で修得した単位の認定	※3

(※1、※2) 留学先により異なります。

(※3) 認定される単位の上限は②、③、④と合計し60単位までになります。

(2) 外国の教育機関への留学について

- ① 原則として、本学に1年以上在籍した者が留学できます。
- ② 留学の期間は3ヶ月以上でなければなりません。
- ③ 留学期間は通算2年を超えない範囲で延長を許可することがあります。
- ④ 帰国後、すみやかに（原則として1ヶ月以内）単位認定に必要な書類を提出してください。
- ⑤ 留学によって得た単位全てが認定されるわけではありません。留学先との学事暦の違いによって学修期間の空白が起り、4年で卒業できない可能性もあります。

す。留学はリスクを伴う行動であることをよく認識してください。

(3) 外国の教育機関への留学（海外研修）の履修について

参加し成果が認められた場合に単位が認定されます。なお、履修登録は不要です。

(4) 大学コンソーシアム八王子加盟大学間単位互換について

八王子地域の「大学コンソーシアム八王子」に加盟する大学と単位互換協定を締結しています。これにより、本学以外の大学で開講する所定の正規授業を、履修料等免除で受講し単位を修得することができます。

(5) インターンシップの履修について

事前講義・事後講義への出席、実習先企業からの評価、レポートの提出・発表を総合して、その成果が認められた場合に単位が認定されます。

(6) アドバンストブレイスメントに関する単位認定について

高等学校、中等教育学校等に在学中に本学あるいは他大学で履修し単位を付与された授業科目については本人からの申し出により単位認定をおこないます。ただし単位の認定は入学後1年以内に限られます。詳細は教務課窓口で確認してください。

VI 試験

1 試験の種類

授業科目の単位の認定及びその成績は、平常点や平常試験、及び試験（定期試験、追試験、再試験）の総合判定により評価します。

(1) 平常点・平常試験

- ① 平常点とは、授業などを通じて行われる学業成績評価の方法をいいます。
- ② 平常試験とは、授業時間中などに随時実施される試験をいいます。

(注) 平常試験は追試験の対象となりません。やむを得ない事情により受けることができなかつた場合の措置は、授業科目担当教員の判断によりますので、各自で確認してください。

(2) 定期試験

定期試験とは、学期末の指定期間に、特別の時間割のもとに実施される試験です（一部の科目については、指定期間の約1週間前に行う場合があります）。なお、授業科目によっては、定期試験実施の代わりに、レポート提出を課す場合があります。

(3) 追試験

① 対象者

追試験とは、病気その他の正当な理由により定期試験を受けることができなかつた学生に対して、定期試験に代えて実施される試験です。

② 対象科目

追試験については、該当する学生の受験願に基づき、対象となります。

科目の授業科目担当教員と教務委員会とが協議のうえ、教授会の承認を経て、試験を実施する科目と学生が決定されます。

③ 手続き方法

追試験を希望する学生は、指定の期日までに教務課に「追試験願」に以下の書類を添付し、提出しなければなりません。提出期間については、掲示板に掲示するので各自確認してください。

追試験申請理由	添付する書類
学校感染症に罹患した場合	感染症罹患証明書、医師の診断書
病気、けがで登校不能な場合	医師の診断書
忌引き、近親者が重病の場合	会葬礼状（コピー可）または保証人の連署押印した書類
電車・バスの遅延	遅延証明書
事故及び災害	事故・災害を証明する公的機関が発行した書類

- 注) 1 感染症罹患証明書は大学指定の書式、又は医療機関が作成する書式のどちらでもよい。大学指定の書式は以下のURLからダウンロードすること。
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/health/kansen/rikan.pdf>
- 2 「忌引き、近親者が重病の場合」の対象となるのは、2親等以内の親族とする。
 - 3 自転車の通学は、すべて本人の責任において行うものとし、事故等により定期試験が受験できなかったとしても、追試験の対象とはならない。
 - 4 上記の取り扱いは、授業時間中などに実施される試験（平常試験）は除きます。
 - 5 追試験として受験が認められた科目が、再試験の対象科目となった場合は、再試験として受験するものとする。

(4) 再試験

再試験の受験は以下の条件のもと、教授会の承認を経て、受験が許可されます。

① 対象者

- ア 再試験は、第4学期及び最終学期（第8学期）においてのみ実施される。
- イ 進級及び卒業に不足する単位数が、6単位以内の場合にのみ、次に定める対象科目のうち、6単位を上限として実施される。

② 対象科目

- ア 当該科目の単位の修得により、進級または卒業が可能となるものに限られる。
- イ 当該学期において履修し、不合格（D評価）の評価を得たものに限られる。

③ 手続き方法

第4学期から第5学期への進級保留者及び最終学期の卒業保留者は、春学期は8月下旬、秋学期は2月中旬頃に掲示にて発表されます。保留者となった者は、下記のとおり手続きを行ってください。

- (a) 発表当日に行う保留者説明会に必ず出席すること（出席しないと再試験が受験できない場合があります）。
- (b) 再試験の対象科目がある場合は、説明会での指示に従い速やかに申請を行うこと。
 (注) 学生証と受験料（1科目 2,000円）が必要となります。
- (c) 再試験の日程・時間割・実施方法については、再試験期間の数日前に掲示するので、各自掲示板で確認すること。

2 試験に関する一般的な注意事項

(1) 受験資格についての注意事項

- ① 学期のはじめに履修登録をした科目についてのみ、受験することができます。また、追試験や再試験については、所定の受験願などの手続きをして、許可された場合にのみ、受験することができます。
- ② 実授業回数の3分の2以上の出席をしていない場合や、その他、授業科目ごとに指定された条件を欠く場合には、その科目の試験を受験できないことがあります。
- ③ 授業料その他の学納金を納めていない者は受験資格がありません。

(2) 試験実施にあたっての注意事項

- ① 試験の時間割、科目ごとの実施方法、その他の注意事項は、原則として掲示により発表します。その他、平常の授業時間中などにも、しばしば小テストや試験が実施されますので、授業時間中の指示にも注意してください。
- ② 定期試験の実施時間帯は、通常の授業時間帯と異なりますので注意してください。試験の実施日時を間違えると試験を受けることができず、追試験の対象にもなりません。

(3) 受験にあたっての注意事項

- ① 指定された試験場で受験してください。同一科目であっても、在学学期・学籍番号によって、試験場が異なる場合がありますので注意してください。
- ② 試験場には学生証を必ず持参してください。学生証を持参しない者は受験できません。学生証を忘れた場合には、「定期試験時の学生証事故届」を発行してもらってください。ただし、「定期試験時の学生証事故届」は、試験当日を含め4日以内に教務課に学生証と共に提示し、照合を受けてください。前項の手続きを行わない場合は、不正行為とみなされます。
- ③ 受験にあたっては、授業科目担当教員や係員の指示に従わなければなりません。
- ④ 試験開始後20分を越えて遅刻した者は、受験することができません。
- ⑤ 学籍番号・氏名をはじめ、答案用紙の所定の記入事項は、読み易く、丁寧に記載してください。
- ⑥ 不正行為を行った者は、内規に従って厳重に処分されます。私語その他疑義をまねくような態度も控えるよう注意してください。なお、試験にかわるレポートの場合もこれを準用します。

3 レポート提出に関する注意事項

科目によっては、試験実施の代わりに、レポート提出を課す場合があります。授業科目担当教員からレポート提出の指示があった場合は、次の事項に注意しなければなりません。

- (1) 提出するレポートには、各自表紙をつけ、その表紙には、科目名・授業科目担当教員名、提出者の学籍番号・氏名、提出年月日を明記してください。
- (2) レポートは必ず綴じて提出してください。
- (3) 提出場所は、原則として、教務課レポートボックスとします。その旨を掲示しますので、指示に従ってください。
- (4) 一度提出したレポートについては、以後、内容の変更・訂正は認められません。提出前に十分に注意してください。
- (5) 提出期限と指示された提出場所を厳守してください。これらに違反したレポートなどの提出物は、一切無効とします。
- (6) その他、授業科目担当教員の指示に従ってください。

Ⅶ 成績

1 成績評価・表記

成績の評価及び表記は、次のとおりです。(総合判定を100点とした場合の成績評価)

判定	合格				不合格	不能	認定	中止
点数	100 ～ 90	89 ～ 80	79 ～ 70	69 ～ 60	59 ～ 0	出席 不良等		
成績通知書に 表記される評価	S	A	B	C	D	E	N	W
成績証明書に 表記される評価	S	A	B	C	表記されない		N	表記されない

- 注) 1 「D」は上記点数のほか、定期試験を欠席した場合も含まれます。
 2 「N」は単位認定制度により、認定を受けた授業科目について表記されます。
 3 「W」は履修中止制度により、履修を中止(登録削除)した授業科目について表記されます。
 4 「E」は原則として再試験は受験できません。

2 GPA制度について

GPA (Grade Point Average) とは、国際社会で広く採用されている客観的な成績評価基準です。GPAはいわゆる高等学校の評定平均値のように、学業成績を総合的に判断する指標として利用されており、本学部では学生の個別指導や奨学金の給付・貸与者の決定の際などの基礎資料に活用します。

また、学生の皆さんはこのGPA値を、学修意欲の向上や、履修計画の見通しを立てることに繋げるとともに、単位取得という学修の“量”だけでなく、その“質”の重要性にも向き合ってください。

GPA制度に関する詳しい内容は、外国語学部履修規程第5条の2を参照してください。

◎成績に対する評点

点数	合格				不合格		認定
成績評価	S	A	B	C	D	E	N
評点	4	3	2	1	0		—

◎GPAの算出方法

$$GPA = \frac{\{(各学期の評価を受けた科目のGP) \times (当該科目の単位数)\}の累計}{(各学期配当の履修登録の単位数の合計)の累計}$$

※各学期配当の履修登録の単位数の合計には、不合格(D、E)の単位数を含みます。

◎前学期のGPAが3.5以上の場合は、履修登録単位の上限を緩和し、24単位まで履修が認められる場合があります。

◎GPAによる履修指導について

前学期のGPAが1.3以下の場合は、アカデミックアドバイザーの指導により、履修登録の上限数を定めることがあります。

前学期のGPAが1.5以下の場合は、アカデミックアドバイザーの指導により、履修計画を提出することになります。計画が認められないと履修登録ができませんので注意してください。学期途中にアカデミックアドバイザーとの面談を行い、学修状況の報告を行うこともあります。

なお、GPAの数値が著しく低い場合は、進級、卒業に多大な影響を及ぼすことがあり、退学を勧告する場合がありますので、注意してください。

3 成績発表

成績発表は、次のとおり成績通知書の交付により行います。

区分	交付日	交付先	交付方法
春学期	9月上旬	保証人(保護者) ※保証人に交付を希望しない者を除く。	郵送
秋学期	3月上旬		

- 注) 1 住所変更がある場合は、早めに変更の手続きを行ってください。
 2 保証人(保護者)に交付を希望しない者は申し出てください。
 3 外国人留学生は学生本人にも交付します。
 4 成績通知書の追加発行は行いません。

4 成績評価の問い合わせについて

自身の成績評価について、確固たる根拠がある場合のみ、当該科目の担当教員に質問することができます。その際は、教務課にある申請用紙「成績評価に関する問い合わせ」を提出してください。ただし、懇願的で救済措置を求める内容は、受け付けません。

なお、担当教員が質問の趣旨を明らかにするため、質問者に直接たずねる場合があります。

5 学期末日程について

春学期は6月下旬、秋学期は12月下旬に「学期末日程」を掲示します。追試験申請手続き締め切り、進級保留者・卒業保留者発表及び追・再試験申請等は各自の責任において、必ず掲示板で確認してください。

注) 掲示の日程については変更になる場合があります。

VIII 卒業と進級

1 卒業の要件

本学部を卒業して学士の称号を得るためには、4年間（8学期）以上在学し、所属の学科ごとに定める単位（下記参照）を含めて、124単位以上を修得しなければなりません（学則第39条第4項）。また、8年（16学期）を超えて在学することはできません（学則第17条第1項）。

なお、必修となる授業科目、単位数その他の卒業要件は、入学時の規定が卒業まで適用されますので、履修にあたっては十分に注意してください。

(1) 学科別の必修科目及び選択必修科目の科目数並びに単位数

学 科	科目数・単位数	合 計					
		外国語科目A	外国語科目B	基盤教育科目	教養科目	専門科目	合計
英語学科	21	8	—	14	—	22	44
中国語学科	38	4	4	14	—	54	76
観光交流文化学科	25	8	8	18	—	16	50

3学科共に所属学科の専門科目から必修科目及び選択必修科目の単位数を含む**66単位以上**を選択必修とする。また、選択必修科目「テーマで学ぶ現代社会Ⅰ～Ⅲ」より1科目2単位以上を選択必修とする。

英語学科では、選択必修科目「英語文法Ⅰ・Ⅱ」、「目的別英語演習Ⅰ～Ⅵ」より2科目4単位以上を選択必修とする。

(2) 転・編入生の卒業要件について

転・編入生は杏林大学に転・編入学時に、原則として62単位の単位を認定されています。入学後、杏林大学を卒業するには、4学期間以上在籍し、62単位以上を修得しなければなりません。その単位の履修は以下のようになります。

- ①第5学期以降の必修科目は履修しなければなりません。
- ②履修する学生の語学力によって、教務委員会が外国語科目の単位のとり方について指導する場合があります。その場合は教務委員会の指示に従ってください。

2 進級の条件

(1) 通常の進級条件

第5学期への進級に際して、卒業に必要な総単位数のうち、62単位以上を修得していなければなりません。他の学期への進級には、1単位以上を修得していることが必要です。

(2) 留学期（留セメスター）

前項により進級の認定がなされなかった学生は留学期（留セメスター）とし、原級に留めるものとします。

(3) 進級できなかった場合の科目履修

留学期（留セメスター）の学生は、当該学期次の未取得科目を履修しなければなりません。また、そのほか、授業科目担当教員及び教務委員会が協議のうえ、次の配当学期の科目の履修を認める場合があります。

IX 授業科目

英語学科

1 外国語科目 A

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
英語 I	1	2			ENG1101	
英語 II	1	2			ENG1102	
英語 III	1	2			ENG1103	
英語 IV	1	2			ENG1104	
実用英語演習 I	1		2		ENG1105	
実用英語演習 II	1		2		ENG1106	
中国語 I	1		2		CHN1101	
中国語 II	1		2		CHN1102	
韓国語 I	1		2		KOR1101	
韓国語 II	1		2		KOR1102	
ドイツ語 I	1		2		GER1101	
ドイツ語 II	1		2		GER1102	
フランス語 I	1		2		FRN1101	
フランス語 II	1		2		FRN1102	
スペイン語 I	1		2		SPN1101	
スペイン語 II	1		2		SPN1102	
日本語 I	1		2		JPN1101	
日本語 II	1		2		JPN1102	
日本語 III	1		2		JPN1103	
日本語 IV	1		2		JPN1104	
日本語 V	1		2		JPN1105	
日本語 VI	1		2		JPN1106	

2 外国語科目 B

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
英語特別演習 I	3		2		ENG3207	
英語特別演習 II	3		2		ENG3208	
中国語Ⅲ	3		2		CHN3201	
中国語Ⅳ	3		2		CHN3202	
中国語特別演習 I	3		2		CHN3203	
中国語特別演習 II	3		2		CHN3204	
中国語特別演習Ⅲ	3		2		CHN3205	
中国語特別演習Ⅳ	3		2		CHN3206	
韓国語Ⅲ	3		2		KOR3201	
韓国語Ⅳ	3		2		KOR3202	
実用韓国語	5		2		KOR5201	
ドイツ語Ⅲ	3		2		GER3201	
ドイツ語Ⅳ	3		2		GER3202	
フランス語Ⅲ	3		2		FRN3201	
フランス語Ⅳ	3		2		FRN3202	
スペイン語Ⅲ	3		2		SPN3201	
スペイン語Ⅳ	3		2		SPN3202	

3 基盤教育科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
大学入門	1	2			GEN1301	基本科目
アカデミックライティング	1	2			GEN1302	
コミュニケーション概論	1		2		GEH1301	
テーマで学ぶ現代社会Ⅰ	1		2	選択必修 2単位 以上	GEH1302	融合科目
テーマで学ぶ現代社会Ⅱ	1		2		GEH1303	
テーマで学ぶ現代社会Ⅲ	1		2		GEH1304	
サービスラーニングⅠ	3		2		GEH3301	
サービスラーニングⅡ	3		2		GEH3302	
データサイエンス	1	2			GES1301	データサイエンス科目
データリテラシー	1	2			GES1302	
統計学	3		2		GES3301	
情報処理	1		2		GES1303	
異文化コミュニケーション	1		2		GEH1305	グローバル・地域・社会・異文化理解科目
地域圏研究Ⅰ	1		2		GEH1306	
地域圏研究Ⅱ	1		2		GEH1307	
地域圏研究Ⅲ	1		2		GEH1308	
ダイバーシティ論	1		2		GEH1309	
フィールドスタディⅠ	1		2		GEH1310	
フィールドスタディⅡ	1		2		GEH1311	
フィールドスタディⅢ	1		2		GEH1312	
フィールドスタディⅣ	1		2		GEH1313	
キャリアデザインⅠ	3	2			GEN3301	
キャリアデザインⅡ	3	2			GEN3302	
キャリアデザインⅢ	5		2		GEN5301	
キャリアデザインⅣ	5		2		GEN5302	
インターンシップⅠ	3		2		GEH3304	
インターンシップⅡ	3		2		GEH3305	
インターンシップⅢ	5		2		GEH5301	
日本語学概論	1		2		JPN1301	日本語教師養成科目
日本語学特論Ⅰ	1		2		JPN1302	
日本語学特論Ⅱ	1		2		JPN1303	
日本語学特論Ⅲ	1		2		JPN1304	

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
日本語教育学概論	1		2		JPN1305	日本語教師養成科目
日本語教育実習Ⅰ	3		2		JPN3301	
日本語教育実習Ⅱ	3		2		JPN3302	
日本語教育実習Ⅲ	3		2		JPN3303	
日本語教育学特論Ⅰ	3		2		JPN3304	
日本語教育学特論Ⅱ	3		2		JPN3305	
日本語教育学特論Ⅲ	3		2		JPN3306	
日本文化演習	1		2		JPN1306	
海外語学実習Ⅰ	1		1		GEH1314	
海外語学実習Ⅱ	1		1		GEH1315	
海外語学実習Ⅲ	1		1		GEH1316	
海外語学実習Ⅳ	1		1		GEH1317	
国内語学実習Ⅰ	1		1		GEH1318	
国内語学実習Ⅱ	1		1		GEH1319	

4 教養科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
文学	1		2		GEH1401	
社会学	1		2		GEH1402	
地理学	1		2		GEH1403	
経営学	1		2		GEH1404	
哲学	1		2		GEH1405	
倫理学	1		2		GEH1406	
心理学	1		2		GEH1407	
ホスピタリティ・コミュニケーション	1		2		GEH1408	
歴史学	1		2		GEH1409	
日本国憲法	1		2		GEH1410	
健康と体育	1		2		GEH1411	
社会と大学Ⅰ	1		2		GEH1412	
社会と大学Ⅱ	1		2		GEH1413	
社会と大学Ⅲ	1		2		GEH1414	
保健・医療の現状と未来Ⅰ	1		2		GEH1415	
保健・医療の現状と未来Ⅱ	1		2		GEH1416	

5 専門科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考	
		必修	選択				
英語の世界	1	2			ENG1501	専門基盤科目	
コミュニケーションと人間	1	2			ENG1502		
英語文法 I	1	2		選択必修4単位以上 選択必修66単位以上(※)	ENG1503	発展英語科目	
英語文法 II	1	2			ENG1504		
目的別英語演習 I	1	2			ENG1505		
目的別英語演習 II	1	2			ENG1506		
目的別英語演習 III	1	2			ENG1507		
目的別英語演習 IV	1	2			ENG1508		
目的別英語演習 V	1	2			ENG1509		
目的別英語演習 VI	1	2			ENG1510		
目的別英語演習・上級 I	3	2			ENG3501		
目的別英語演習・上級 II	3	2			ENG3502		
目的別英語演習・上級 III	3	2			ENG3503		
目的別英語演習・上級 IV	3	2			ENG3504		
英語文献講読 I	3	2			ENG3505		専門英語科目
英語文献講読 II	3	2			ENG3506		
英語発音聴取	3	2		ENG3508			
英語翻訳論	5	2		ENG5501			
英語翻訳演習	5	2		ENG5502			
Writing Strategies	5	2		ENG5503			
Communication Strategies	5	2		ENG5504			
Integrated English I	5	2		ENG5505			
Integrated English II	5	2		ENG5506			
英語音声学	3	2		ENG3507	英語学科目		
英語学演習 I	3	2		ENG3509			
英語学演習 II	3	2		ENG3510			
英語学演習 III	3	2		ENG3511			

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考	
		必修	選択				
英語学演習 IV	3		2		ENG3512	英語学科目	
英語学演習 V	3		2		ENG3513		
英語学特論 I	3		2		ENG3514		
英語学特論 II	3		2		ENG3515		
英語学特論 III	3		2		ENG3516		
英語学特論 IV	3		2		ENG3517		
英語学特論 V	3		2		ENG3518		
表象文化論 I	3		2		ENG3519		英語圏文学・文化科目
表象文化論 II	3		2		ENG3520		
英文学特論 I	5		2		ENG5507		
英文学特論 II	5		2		ENG5508		
米文学特論 I	5		2		ENG5509		選択必修66単位以上(※)
米文学特論 II	5		2		ENG5510		
英語文学	1		2		ENG1511		
異文化コミュニケーション特論	3		2		ENG3521	異文化コミュニケーション科目	
異文化交流	3		2		ENG3522		
西洋的思考と哲学	3		2		ENG3523		
Global Issues I	3		2		ENG3524		
Global Issues II	3		2		ENG3525	応用言語学	
社会言語学	3		2		ENG3526		
認知言語学	3		2		ENG3527		
英語教育論 I	3		2		ENG3528		
英語教育論 II	3		2		ENG3529		
英語科教育法 I	5		2		ENG5511		
英語科教育法 II	5		2		ENG5512		
ゼミナール I	5	2			GEN5303		発展研究科目
ゼミナール II	5	2			GEN5304		
ゼミナール III	7	2			GEN7501		
卒業論文・課題指導	7・8	4			GEN7502		

※所属学科の専門科目から66単位以上を選択必修。

6 関連科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
他学部を設置科目						

中国語学科

1 外国語科目 A

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
英語 I	1	2			ENG1101	
英語 II	1	2			ENG1102	
実用英語演習 I	1		2		ENG1105	
実用英語演習 II	1		2		ENG1106	
韓国語 I	1		2		KOR1101	
韓国語 II	1		2		KOR1102	
ドイツ語 I	1		2		GER1101	
ドイツ語 II	1		2		GER1102	
フランス語 I	1		2		FRN1101	
フランス語 II	1		2		FRN1102	
スペイン語 I	1		2		SPN1101	
スペイン語 II	1		2		SPN1102	
日本語 I	1		2		JPN1101	
日本語 II	1		2		JPN1102	
日本語 III	1		2		JPN1103	
日本語 IV	1		2		JPN1104	
日本語 V	1		2		JPN1105	
日本語 VI	1		2		JPN1106	

2 外国語科目 B

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
英語コミュニケーション I	3	2			ENG3201	
英語コミュニケーション II	3	2			ENG3202	
英語特別演習 I	3		2		ENG3207	
英語特別演習 II	3		2		ENG3208	
中国語特別演習 I	3		2		CHN3203	
中国語特別演習 II	3		2		CHN3204	
中国語特別演習 III	3		2		CHN3205	
中国語特別演習 IV	3		2		CHN3206	
韓国語 III	3		2		KOR3201	
韓国語 IV	3		2		KOR3202	
実用韓国語	5		2		KOR5201	
ドイツ語 III	3		2		GER3201	
ドイツ語 IV	3		2		GER3202	
フランス語 III	3		2		FRN3201	
フランス語 IV	3		2		FRN3202	
スペイン語 III	3		2		SPN3201	
スペイン語 IV	3		2		SPN3202	

3 基盤教育科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
大学入門	1	2			GEN1301	基本科目
アカデミックライティング	1	2			GEN1302	
コミュニケーション概論	1		2		GEH1301	
テーマで学ぶ現代社会 I	1		2	選択必修 2単位 以上	GEH1302	融合科目
テーマで学ぶ現代社会 II	1		2		GEH1303	
テーマで学ぶ現代社会 III	1		2		GEH1304	
サービスラーニング I	3		2		GEH3301	
サービスラーニング II	3		2		GEH3302	
データサイエンス	1	2			GES1301	データサイエンス科目
データリテラシー	1	2			GES1302	
統計学	3		2		GES3301	
情報処理	1		2		GES1303	
異文化コミュニケーション	1		2		GEH1305	グローバル・地域・社会・異文化理解科目
地域圏研究 I	1		2		GEH1306	
地域圏研究 II	1		2		GEH1307	
地域圏研究 III	1		2		GEH1308	
ダイバーシティ論	1		2		GEH1309	
フィールドスタディ I	1		2		GEH1310	
フィールドスタディ II	1		2		GEH1311	
フィールドスタディ III	1		2		GEH1312	
フィールドスタディ IV	1		2		GEH1313	
キャリアデザイン I	3	2			GEN3301	キャリアディベロップメント科目
キャリアデザイン II	3	2			GEN3302	
キャリアデザイン III	5		2		GEN5301	
キャリアデザイン IV	5		2		GEN5302	
インターンシップ I	3		2		GEH3304	
インターンシップ II	3		2		GEH3305	
インターンシップ III	5		2		GEH5301	
日本語学概論	1		2		JPN1301	日本語教師養成科目
日本語学特論 I	1		2		JPN1302	
日本語学特論 II	1		2		JPN1303	
日本語学特論 III	1		2		JPN1304	

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考	
		必修	選択				
日本語教育学概論	1		2		JPN1305	日本語教師養成科目	
日本語教育実習Ⅰ	3		2		JPN3301		
日本語教育実習Ⅱ	3		2		JPN3302		
日本語教育実習Ⅲ	3		2		JPN3303		
日本語教育学特論Ⅰ	3		2		JPN3304		
日本語教育学特論Ⅱ	3		2		JPN3305		
日本語教育学特論Ⅲ	3		2		JPN3306		
日本文化演習	1		2		JPN1306		
海外語学実習Ⅰ	1		1		GEH1314		海外フィールド科目
海外語学実習Ⅱ	1		1		GEH1315		
海外語学実習Ⅲ	1		1		GEH1316		
海外語学実習Ⅳ	1		1		GEH1317		
国内語学実習Ⅰ	1		1		GEH1318		
国内語学実習Ⅱ	1		1		GEH1319		

4 教養科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
文学	1		2		GEH1401	
社会学	1		2		GEH1402	
地理学	1		2		GEH1403	
経営学	1		2		GEH1404	
哲学	1		2		GEH1405	
倫理学	1		2		GEH1406	
心理学	1		2		GEH1407	
ホスピタリティ・コミュニケーション	1		2		GEH1408	
歴史学	1		2		GEH1409	
日本国憲法	1		2		GEH1410	
健康と体育	1		2		GEH1411	
社会と大学Ⅰ	1		2		GEH1412	
社会と大学Ⅱ	1		2		GEH1413	
社会と大学Ⅲ	1		2		GEH1414	
保健・医療の現状と未来Ⅰ	1		2		GEH1415	
保健・医療の現状と未来Ⅱ	1		2		GEH1416	

5 専門科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
インテンシブ中国語Ⅰ	1	2		選択必修 66単位 以上 (※)	CHN1501	中国語 基礎科目
インテンシブ中国語Ⅱ	1	2			CHN1502	
インテンシブ中国語Ⅲ	1	2			CHN1503	
インテンシブ中国語Ⅳ	1	2			CHN1504	
インテンシブ中国語Ⅴ	1	2			CHN1505	
インテンシブ中国語Ⅵ	1	2			CHN1506	
インテンシブ中国語Ⅶ	1	2			CHN1507	
インテンシブ中国語Ⅷ	1	2			CHN1508	
インテンシブ中国語Ⅸ	3	2			CHN3501	
インテンシブ中国語Ⅹ	3	2			CHN3502	
インテンシブ中国語Ⅺ	3	2			CHN3503	
インテンシブ中国語Ⅻ	3	2			CHN3504	
インテンシブ中国語Ⅼ	3	2			CHN3505	
インテンシブ中国語Ⅽ	3	2			CHN3506	
インテンシブ中国語Ⅾ	3	2			CHN3507	
インテンシブ中国語Ⅿ	3	2			CHN3508	
中国語発音矯正Ⅰ	1	2			CHN1509	
中国語発音矯正Ⅱ	1	2			CHN1510	
中国語学概論	3	2			CHN3509	地域圏 研究科目
中国語の文法	3		2		CHN3510	
中国語の音声	5	2			CHN5501	
デジタル時代の中国語	5		2		CHN5502	
地域研究入門	1	2			CHN1511	
中国の地誌	1		2		CHN1512	
中国語圏研究	3	2			CHN3511	
韓国語圏研究	3		2		CHN3512	
韓国の文学・文化	3		2	CHN3513		
中国文学史Ⅰ	3		2	CHN3514		
中国文学史Ⅱ	3		2	CHN3515		
日中比較文化論Ⅰ	3		2	CHN3516		
日中比較文化論Ⅱ	3		2	CHN3517		
アジア政治論	5		2	CHN5503		

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
アジア経済論	5		2	選択必修 66単位 以上 (※)	CHN5504	地域圏 研究科目
中国の政治・経済	5		2		CHN5505	
中国の思想	3		2		CHN3518	
中国の歴史	3		2		CHN3519	
近代中国と日本Ⅰ	5		2		CHN5506	
近代中国と日本Ⅱ	5		2		CHN5507	
中国語プレゼンテーション	5		2		CHN5508	中国語 発展科目
中国語ビジネス コミュニケーション演習Ⅰ	5		2		CHN5509	
中国語ビジネス コミュニケーション演習Ⅱ	5		2		CHN5510	
中国語演習Ⅰ	5		2		CHN5511	
中国語演習Ⅱ	5		2		CHN5512	
中国語演習Ⅲ	5		2		CHN5513	
中国語演習Ⅳ	5		2		CHN5514	
中国語通訳法Ⅰ	5	2			CHN5515	
中国語通訳法Ⅱ	5	2			CHN5516	
中国語翻訳法Ⅰ	5		2		CHN5517	
中国語翻訳法Ⅱ	5		2		CHN5518	
中日通訳・翻訳Ⅰ	5		2		CHN5519	
中日通訳・翻訳Ⅱ	5		2		CHN5520	
日中通訳・翻訳Ⅰ	5		2		CHN5521	
日中通訳・翻訳Ⅱ	5		2		CHN5522	
ゼミナールⅠ	5	2			GEN5303	発展研究科目
ゼミナールⅡ	5	2			GEN5304	
ゼミナールⅢ	7	2			GEN7501	
卒業論文・課題指導	7・8		4		GEN7502	

※所属学科の専門科目から66単位以上を選択必修。

6 関連科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
他学部の設置科目						

観光交流文化学科

Ⅰ 外国語科目 A

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
英語 I	1	2			ENG1101	
英語 II	1	2			ENG1102	
英語 III	1	2			ENG1103	
英語 IV	1	2			ENG1104	
実用英語演習 I	1		2		ENG1105	
実用英語演習 II	1		2		ENG1106	
中国語 I	1		2		CHN1101	
中国語 II	1		2		CHN1102	
韓国語 I	1		2		KOR1101	
韓国語 II	1		2		KOR1102	
ドイツ語 I	1		2		GER1101	
ドイツ語 II	1		2		GER1102	
フランス語 I	1		2		FRN1101	
フランス語 II	1		2		FRN1102	
スペイン語 I	1		2		SPN1101	
スペイン語 II	1		2		SPN1102	
日本語 I	1		2		JPN1101	
日本語 II	1		2		JPN1102	
日本語 III	1		2		JPN1103	
日本語 IV	1		2		JPN1104	
日本語 V	1		2		JPN1105	
日本語 VI	1		2		JPN1106	

Ⅱ 外国語科目 B

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
英語 V	3	2			ENG3203	
英語 VI	3	2			ENG3204	
英語 VII	3	2			ENG3205	
英語 VIII	3	2			ENG3206	
英語特別演習 I	3		2		ENG3207	
英語特別演習 II	3		2		ENG3208	
中国語 III	3		2		CHN3201	
中国語 IV	3		2		CHN3202	
中国語特別演習 I	3		2		CHN3203	
中国語特別演習 II	3		2		CHN3204	
中国語特別演習 III	3		2		CHN3205	
中国語特別演習 IV	3		2		CHN3206	
韓国語 III	3		2		KOR3201	
韓国語 IV	3		2		KOR3202	
実用韓国語	5		2		KOR5201	
ドイツ語 III	3		2		GER3201	
ドイツ語 IV	3		2		GER3202	
フランス語 III	3		2		FRN3201	
フランス語 IV	3		2		FRN3202	
スペイン語 III	3		2		SPN3201	
スペイン語 IV	3		2		SPN3202	

3 基盤教育科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
大学入門	1	2			GEN1301	基本科目
アカデミックライティング	1	2			GEN1302	
コミュニケーション概論	1		2		GEH1301	
テーマで学ぶ現代社会Ⅰ	1		2	選択必修 2単位 以上	GEH1302	融合科目
テーマで学ぶ現代社会Ⅱ	1		2		GEH1303	
テーマで学ぶ現代社会Ⅲ	1		2		GEH1304	
サービスラーニングⅠ	3		2		GEH3301	
サービスラーニングⅡ	3		2		GEH3302	
データサイエンス	1	2			GES1301	データサイエンス科目
データリテラシー	1	2			GES1302	
統計学	3		2		GES3301	
情報処理	1		2		GES1303	
異文化コミュニケーション	1		2		GEH1305	グローバル・地域・社会・異文化理解科目
地域圏研究Ⅰ	1		2		GEH1306	
地域圏研究Ⅱ	1		2		GEH1307	
地域圏研究Ⅲ	1		2		GEH1308	
ダイバーシティ論	1		2		GEH1309	
フィールドスタディⅠ	1		2		GEH1310	
フィールドスタディⅡ	1		2		GEH1311	
フィールドスタディⅢ	1		2		GEH1312	
フィールドスタディⅣ	1		2		GEH1313	
キャリアディベロップメントⅠ	1	2			GEN1303	
キャリアディベロップメントⅡ	3	2			GEH3303	
キャリアデザインⅢ	5	2			GEN5301	
キャリアデザインⅣ	5	2			GEN5302	
インターンシップⅠ	3		2		GEH3304	
日本語学概論	1		2		JPN1301	日本語教師養成科目
日本語学特論Ⅰ	1		2		JPN1302	
日本語学特論Ⅱ	1		2		JPN1303	
日本語学特論Ⅲ	1		2		JPN1304	
日本語教育学概論	1		2		JPN1305	
日本語教育実習Ⅰ	3		2		JPN3301	

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
日本語教育実習Ⅱ	3		2		JPN3302	日本語教師養成科目
日本語教育実習Ⅲ	3		2		JPN3303	
日本語教育学特論Ⅰ	3		2		JPN3304	
日本語教育学特論Ⅱ	3		2		JPN3305	
日本語教育学特論Ⅲ	3		2		JPN3306	
日本文化演習	1		2		JPN1306	海外フィールド科目
海外語学実習Ⅰ	1		1		GEH1314	
海外語学実習Ⅱ	1		1		GEH1315	
海外語学実習Ⅲ	1		1		GEH1316	
海外語学実習Ⅳ	1		1		GEH1317	
国内語学実習Ⅰ	1		1		GEH1318	
国内語学実習Ⅱ	1		1		GEH1319	

4 教養科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
文学	1		2		GEH1401	
社会学	1		2		GEH1402	
地理学	1		2		GEH1403	
経営学	1		2		GEH1404	
哲学	1		2		GEH1405	
倫理学	1		2		GEH1406	
心理学	1		2		GEH1407	
ホスピタリティ・コミュニケーション	1		2		GEH1408	
歴史学	1		2		GEH1409	
日本国憲法	1		2		GEH1410	
健康と体育	1		2		GEH1411	
社会と大学 I	1		2		GEH1412	
社会と大学 II	1		2		GEH1413	
社会と大学 III	1		2		GEH1414	
保健・医療の現状と未来 I	1		2		GEH1415	
保健・医療の現状と未来 II	1		2		GEH1416	

5 専門科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考	
		必修	選択				
ホスピタリティ入門	1	2			TRM1501	観光基礎科目	
観光学入門	1	2			TRM1502		
現代社会と観光ホスピタリティ	1	2			TRM1503		
観光基礎演習	3	2			TRM3501		
観光調査法	3	2			TRM3502		
交流文化論	3		2		TRM3503		
観光心理学	3		2		TRM3504		
観光地理学	3		2		TRM3505		
観光政策論	3		2		TRM3506		
観光マーケティング論	3		2		TRM3507		
人的資源管理論	3		2		TRM3508		
ファシリテーション実習	3		2		TRM3509		
ホスピタリティ財務会計論	3		2		TRM3510		
観光リスクマネジメント論	3		2		TRM3511		
観光メディア論	3		2		TRM3512		
観光資源論 I	3		2	選択必修 66単位 以上 (※)	TRM3513		
観光資源論 II	3		2		TRM3514		
観光コンテンツデザイン実習	5		2		TRM5501		
Tourism English I	5		2		TRM5502		
Tourism English II	5		2		TRM5503		
観光実用英語インテンシブ I	5		2		TRM5504		
観光実用英語インテンシブ II	5		2		TRM5505		
健康科学の基礎	1		2		TRM1504		ウェルネス ツーリズム 科目群
ウェルネスツーリズム論	3		2		TRM3515		
温泉観光学	3		2		TRM3516		
観光衛生論	3		2		TRM3517		
福祉観光論	3		2		TRM3518		
観光手話 I	3		2		TRM3519		
観光手話 II	3		2		TRM3520		
ウェルネスツーリズム実習	5		2		TRM5506		
温泉療養学	5		2		TRM5507		
旅行医学概論	5		2		TRM5508		
疾病地域論	5		2		TRM5509		

※所属学科の専門科目から66単位以上を選択必修。

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考	
		必修	選択				
観光交通論	3		2	選択必修 66単位 以上 (※)	TRM3521	ホスピタリティ ティビジネス プログラム 科目	
航空産業論	3		2		TRM3522		
航空サービス論	3		2		TRM3523		
ホテルオペレーション	3		2		TRM3524		
宿泊産業論	3		2		TRM3525		
フードビジネス論	3		2		TRM3526		
旅行産業論	3		2		TRM3527		
ホスピタリティ・ ビジネスインターンシップ	3		2		TRM3528		
ホスピタリティ・ ビジネス演習	5		2		TRM5510		
ホスピタリティ・ ビジネス特論Ⅰ	5		2		TRM5511		
ホスピタリティ・ ビジネス特論Ⅱ	5		2		TRM5512		
観光まちづくり論	3		2		TRM3529		地域創造 プログラム 科目
国際協力と観光	3		2		TRM3530		
地域創造インターンシップ	3		2		TRM3531		
コンテンツ・ツーリズム論	5		2		TRM5513		
エコツーリズム論	5		2		TRM5514		
地域リーダーシップ論	5		2		TRM5515		
NPO・NGO論	5		2		TRM5516		
地域型プロジェクト演習	5		2		TRM5517		
地域創造特論Ⅰ	5		2		TRM5518		
地域創造特論Ⅱ	5		2	TRM5519			
ゼミナールⅠ	5	2		GEN5303	発展研究科目		
ゼミナールⅡ	5	2		GEN5304			
ゼミナールⅢ	7	2		GEN7501			
卒業論文・プロジェクト指導	7・8		6	GEN7503			

※所属学科の専門科目から66単位以上を選択必修。

6 関連科目

授業科目	学期次	単位数		選択必修	科目ナンバリング	備考
		必修	選択			
他学部の設置科目						

X 規 程

杏林大学外国語学部履修規程

制定 昭和63年4月1日

改正 平成5年4月1日 平成5年11月10日
平成8年11月18日 平成9年11月17日
平成11年2月15日 平成11年11月15日
平成12年12月18日 平成18年3月13日
平成20年2月18日 平成22年1月18日
平成23年2月21日 平成25年2月18日
平成26年2月17日 平成27年2月12日
平成28年2月15日 平成28年3月14日
平成30年3月19日 令和3年4月1日

(意 義)

第1条 外国語学部の履修は、杏林大学学則（以下「学則」という。）の定めによるもののほか、この規程による。

(科目の履修)

第2条 授業科目の履修は、学則別表4-5（以下「別表4-5」という。）によるものとする。

- 必修科目及び選択必修科目は、英語学科では、21科目44単位、中国語学科では、38科目76単位、観光交流文化学科では、25科目50単位とし、3学科ともに所属学科の専門科目から66単位以上を選択必修とする。
- 他学科に設置されている専門科目の履修については、在学年限を通じて20単位を限度とし、当該授業科目担当教員及び教務委員会の承認を得なければならない。なお、他学科履修で取得した単位は、前項で規定する専門科目の選択必修66単位（編・転入学生の場合は32単位）に含めない。
- 前項および大学コンソーシアム八王子を通じた単位互換により修得した単位は、関連科目の単位として認める。
- 各学期に履修できる単位の上限を22単位とする。ただし、自由科目等については、この限りではない。
- 転・編入学生は、転・編入学時に62単位を上限に本学の卒業単位として認定する。転・編入学生の入学後の履修科目は、以下のように定める。
(1) 第5学期以降に配当されている必修科目を履修する。ただし、選択必修科目については、第4学期以前に配当されている科目を履修できるものとする。

(2) 転・編入学以前の学習状況により、必要な科目の学習を特別に課する場合がある。

(3) 所属学科の専門科目から32単位以上を選択必修とする。

7 日本語教員養成課程の科目の名称及び単位数は、別表に掲げるとおりとする。日本語教員養成課程の科目のうち所定の単位を修得した者に修了証書を与える。

(履修申告手続)

第3条 履修科目は、各学期始めの所定の期日までに登録を行うものとする。履修申告の方法等については別に定める。

2 前項により登録した履修科目の変更、取り消し及び追加は認めない。ただし、履修登録期間終了後、所定の期間に限り、科目履修を中止することができる。

3 履修申告により登録していない科目は、当該科目の履修及び試験の受験を認めない。

(試験)

第4条 履修科目の単位を修得するためには、その科目の総合判定に合格しなければならない。この総合判定は、平常点のみによる場合と平常点と試験および提出された課題による場合とがある。各授業科目における総合判定は、科目担当者が科目の性質や学習効率などを考慮して決定する。

2 前項の平常点とは、平常授業を通じて行われる評価（小テストなどを含む。）であり、試験とは、定期試験、追試験及び再試験をさす。

3 定期試験は、学期末の指定期間に行う。（一部の科目については、指定期間の約1週間前に行う場合がある。）ただし、科目の履修期間が学期に一致しない場合（集中講義など）は、授業実施期間中に行うことがある。

4 追試験は、病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった者に対して、教授会の承認を経て行う。その実施については別に定める。

5 再試験は、教授会の承認を得た者に限り、第4学期及び最終学期に行う。その実施については別に定める。

(学業成績)

第5条 履修科目の総合判定は、S、A、B、C、Dの5段階の評語で示される。

2 前項の各評語は、総合判定を100点とした場合、Sが90点以上、Aが80点以上90点未満、Bが70点以上80点未満、Cが60点以上70点未満、Dが60点未満若しくは定期試験欠席を意味し、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

3 出席不良等により判定不能な場合の評語はEとする。

4 単位認定を受けた科目の評語はNとする。

5 履修を中止した科目の評語はWとする。

(GPA)

第5条の2 前条の成績の評価（履修中止科目、自由科目及び単位認定科目は除く）に対して次項によるグレードポイント（以下「GP」という。）を設定し、下記の計算式によりGPの平均値であるグレードポイントアベレージ（以下「GPA」と

いう。）を算出する。

$$GPA = \frac{\{ \text{評価を受けた科目のGP} \} \times \{ \text{当該科目の単位数} \}}{\text{履修登録の単位数の合計}} \text{の累計}$$

2 成績の評価に対するGPは、Sが4点、Aが3点、Bが2点、Cが1点、D、Eが0点とする。

(不正行為)

第6条 試験中および提出された課題に不正行為があったときは、当該科目を不合格とする。

2 前項の不正行為については、教授会の決定により、さらに他の履修科目を減点若しくは不合格とし、必要に応じ学則第43条の規定に定める懲戒を行うことがある。

3 試験中および提出された課題の不正行為の取扱いについては別に定める。

(進級判定)

第7条 進級の認定は、教務委員会の議を経て、教授会において審議し、教授会において行う。

2 各学期の修得単位数が1単位以上であれば次の学期に進級できる。ただし、第5学期への進級には、卒業に必要な総単位数のうち、62単位以上を修得しなければならない。

3 履修学期が指定されている必修科目の単位を修得しないで進級した者は、進級学期においてその未修得科目の単位を修得しなければならない。

4 外国の教育機関への留学期間中は進級とする。ただし、留学許可書の留学期間終了後から1ヶ月以内に留学先教育機関が発行した成績証明書等を提出しなければならない。

(留学期)

第8条 前条により進級の認定がされなかった者は留学期とし、原級に留めるものとする。

2 留学期者と留学期経験者の科目の履修については、当該授業科目担当教員及び教務委員会協議のうえ、次学期の科目の履修を認めることがある。

(卒業判定)

第9条 卒業の認定は、第8学期において、教務委員会の議を経て、教授会において審議し、これを行う。

(教授会決定)

第10条 外国語学部の履修について、この規程に定めのない事項は、教授会の定めによる。

第11条 この規定の改廃は、外国語学部教授会で審議し、決定するものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。

別表（第2条第7項関係）

日本語教員養成課程科目

	科 目	単位数
日本語学／日本語教育学科目	日本語学概論	2
	日本語学特論Ⅰ	2
	日本語学特論Ⅱ	2
	日本語学特論Ⅲ	2
	日本語教育学概論	2
	日本語教育学特論Ⅰ	2
	日本語教育学特論Ⅱ	2
	日本語教育学特論Ⅲ	2
	日本文化演習	2
	実技演習科目	日本語教育実習Ⅰ
日本語教育実習Ⅱ		2
日本語教育実習Ⅲ		2

	科 目	単位数
言語／文化等関連科目	コミュニケーション概論	2
	異文化コミュニケーション	2
	地域圏研究Ⅰ	2
	地域圏研究Ⅱ	2
	地域圏研究Ⅲ	2
	ダイバーシティ論	2
	社会学	2
	ホスピタリティ・コミュニケーション	2
	異文化コミュニケーション特論	2
	異文化交流	2
	社会言語学	2
	認知言語学	2
	日中比較文化論Ⅰ	2
	日中比較文化論Ⅱ	2
	近代中国と日本Ⅰ	2
	近代中国と日本Ⅱ	2
ファシリテーション実習	2	
外国語科目	中国語Ⅳ	2
	韓国語Ⅳ	2
	ドイツ語Ⅳ	2
	フランス語Ⅳ	2
	スペイン語Ⅳ	2

備考 上記の表より、18単位以上（日本語学／日本語教育学科目より10単位以上、実技演習科目2単位以上、言語／文化等関連科目6単位以上、ただし、外国語科目を2単位以上取得の場合、言語／文化等関連科目4単位以上とする。）を取得、上級は26単位以上（日本語学／日本語教育学科目より12単位以上、実技演習科目4単位以上、言語／文化等関連科目10単位以上、ただし、外国語科目2単位以上取得の場合は、言語／文化等関連科目8単位以上とする。）を取得する。

○杏林大学外国語学部転学科規程

制定 平成18年3月13日

改正 平成27年3月5日

(目的)

第1条 この規程は、杏林大学学則第34条に定める転学科に関し、外国語学部の学科相互における転学科について細部を定めることを目的とする。

(転学科の時期)

第2条 他学科に転学科を許可する時期は、第3、第4及び第5学期までの進級時とする。

(転学科の人員)

第3条 転学科を許可する人員は、第3学期から第5学期までの進級する各学科の在籍学生数を考慮し、教育に支障のない範囲においてその都度定める。

(転学科資格)

第4条 転学科を志願する者は、転学科後に当該学科の必修科目を履修することが可能である者にかぎる。

(転学科志願)

第5条 転学科を志願する者は、所定の用紙に別に定める「転学科検定料」を添えて教務課へ提出しなければならない。

(転学科試験)

第6条 転学科試験は、学期末に実施する。

2 転学科試験の出題者については、学部長よりこれを委嘱する。

3 転学科試験の受験資格、実施要領は別に定める。

(転学科の許可)

第7条 転学科の許可については、転学科試験の結果を踏まえた教務委員会の議を経て、教授会にて承認する。

附 則

1 この本規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年4月1日以降に入学した者に適用し、それ以前の者に対しては適用しない。

附 則

1 本規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 平成27年4月1日以降に入学した者に適用し、それ以前の者に対しては、なお従前の例による。

XI

教職課程、地（知）の拠点整備事業、APプログラム（高大接続）について

1 教職課程（英語学科のみ）

英語学科では、定められた科目を修得すると、「英語」の中学校教諭・高等学校教諭の各一種免許状を取得することができます。

学校（中学校、高等学校）の教員になるためには、それぞれ該当する「教育職員免許状」（以下、「免許状」という）を取得していることが必要です。免許状は、免許法及び同法施行規則に定められた必要な単位を取得し、大学を卒業して学士の学位（基礎資格）を有する者の申請に基づいて、都道府県の教育委員会から授与されます。授与された免許状は、全国すべての都道府県及び海外の日本人学校においてその効力を有します。

教職課程とは、上記の免許法に基づいて、免許状を取得するために履修する課程のことです。

なお、教員免許状を取得しようとする場合、「教職課程」への登録が必要です。履修を希望する学生は毎学期はじめに実施される教職ガイダンスに出席したうえで、所定の手続きをしなければなりません。

詳細は別誌『教職課程ガイドブック』を参照してください。

2 地域を舞台とした学び

本学では文部科学省が支援した補助事業『地（知）の拠点整備事業（COC）』（2013年度～2017年度）、『地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）』（2015年度～2019年度）に採択されたのを機に、大学が地方公共団体や企業等と協働して地域の課題解決に向けて主体的に行動できる人材の育成、また学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材育成のための育成カリキュラム改革を進めてきました。学生と地域関係者の交流を通じて地域活性化に関連した活動を展開するとともに、『地域のための大学』として「地域を志向した学習」を継続していくため、地域をテーマとする科目と地域住民の方々に開かれた科目の充実を図っています。

[地域をテーマとする科目]

【医学部】(3科目)

No.	科目名称	No.	科目名称
1	地域と大学(早期体験学習Ⅰ)	3	救急医学実習(救急車同乗実習)
2	臨床応用実習 (クリニカルクラークシップ)		

【総合政策学部】(41科目)

No.	科目名称	No.	科目名称
1	社会保障論Ⅰ	22	演習Ⅳ(進邦ゼミナール)
2	社会保障論Ⅱ	23	演習Ⅴ(進邦ゼミナール)
3	介護政策論	24	演習Ⅵ(進邦ゼミナール)
4	出店戦略	25	演習Ⅲ(三浦ゼミナール)
5	家族法	26	演習Ⅳ(三浦ゼミナール)
6	医療経済学	27	演習Ⅴ(三浦ゼミナール)
7	健康社会学	28	演習Ⅵ(三浦ゼミナール)
8	国際政治学	29	演習Ⅲ(岡村ゼミナール)
9	比較経済学	30	演習Ⅳ(岡村ゼミナール)
10	外交政策論B	31	演習Ⅴ(岡村ゼミナール)
11	ローカル・ガバメント論A	32	演習Ⅵ(岡村ゼミナール)
12	ローカル・ガバメント論B	33	学際演習(地域づくり)
13	地域と大学	34	刑法Ⅰ
14	地域と大学(S)	35	刑法Ⅱ
15	演習Ⅰ(木暮ゼミナール)	36	Introduction to Global Health Issues
16	演習Ⅱ(木暮ゼミナール)	37	生活と法
17	演習Ⅲ(木暮ゼミナール)	38	中東・アフリカの政治・経済
18	演習Ⅳ(木暮ゼミナール)	39	租税法Ⅰ
19	演習Ⅴ(木暮ゼミナール)	40	租税法Ⅱ
20	演習Ⅵ(木暮ゼミナール)	41	財政論
21	演習Ⅲ(進邦ゼミナール)		

【外国語学部】(31科目)

No.	科目名称	No.	科目名称
1	社会と大学Ⅲ	5	日本語学特論Ⅱ
2	観光交流文化特論Ⅱ	6	アジアの文学・文化(韓)
3	観光地理学	7	地域圏研究Ⅱ(韓国)
4	ことばと文化	8	韓国語Ⅰ

No.	科目名称	No.	科目名称
9	韓国語Ⅱ	21	ゼミナールⅡ(小堀ゼミナール)
10	韓国語Ⅳ	22	ゼミナールⅠ(古本ゼミナール)
11	Writing Strategies	23	ゼミナールⅡ(古本ゼミナール)
12	実用英語演習Ⅰ	24	ゼミナールⅢ(古本ゼミナール)
13	実用英語演習Ⅱ	25	プロジェクト演習Ⅰ①
14	ゼミナールⅠ(坂本ゼミナール)	26	プロジェクト演習Ⅰ②
15	ゼミナールⅡ(坂本ゼミナール)	27	プロジェクト演習Ⅰ③
16	ゼミナールⅢ(坂本ゼミナール)	28	プロジェクト演習Ⅱ
17	ゼミナールⅠ(八木橋ゼミナール)	29	日本文化論(中・観)
18	ゼミナールⅡ(八木橋ゼミナール)	30	日本文化論(英)
19	ゼミナールⅢ(八木橋ゼミナール)	31	フィールドスタディⅣ
20	ゼミナールⅠ(小堀ゼミナール)		

【保健学部】(108科目)

No.	学科	科目名称	No.	学科	科目名称
1	臨床検査	公衆衛生学Ⅱ	23	看護学	公衆衛生看護活動方法論Ⅱ
2	臨床検査	地域と大学	24	看護学	公衆衛生看護活動論Ⅰ
3	臨床検査	薬理学	25	看護学	公衆衛生看護活動論Ⅱ
4	臨床検査	食品栄養学	26	看護学	地域診断演習
5	臨床検査	臨地実習	27	看護学	公衆衛生看護学実習Ⅰ
6	臨床検査	社会福祉学	28	看護学	公衆衛生看護学実習Ⅱ
7	臨床検査	臨床検査基礎実習	29	看護学	公衆衛生看護学実習Ⅲ
8	看護学	応用看護学実習	30	看護養護	福祉・地域と大学
9	看護学	基礎看護学実習Ⅰ	31	看護養護	健康スポーツ科学
10	看護学	基礎看護学実習Ⅱ	32	看護養護	栄養学(食品学を含む)
11	看護学	高齢者看護学実習Ⅱ	33	看護養護	基礎看護学実習Ⅰ
12	看護学	小児看護学実習	34	看護養護	基礎看護学実習Ⅱ
13	看護学	母性看護学実習	35	看護養護	ボランティア活動
14	看護学	精神看護学実習	36	看護養護	小児看護学実習
15	看護学	福祉・地域と大学	37	看護養護	母性看護学実習
16	看護学	在宅看護学実習	38	看護養護	在宅看護学実習
17	看護学	保健福祉行政論Ⅰ	39	看護養護	精神看護学実習
18	看護学	保健福祉行政論Ⅱ	40	看護養護	老年看護学実習Ⅰ
19	看護学	産業保健学概論	41	看護養護	成人看護学実習Ⅰ
20	看護学	公衆衛生看護学概論	42	看護養護	発達障害と特別支援
21	看護学	家族相談支援論	43	看護養護	統合看護学実習(発達障害)
22	看護学	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ	44	看護養護	発達障害と特別支援

No.	学 科	科 目 名 称	No.	学 科	科 目 名 称
45	臨床工学	公衆衛生学Ⅰ	77	理学療法	日常生活技術学
46	臨床工学	公衆衛生学Ⅱ	78	理学療法	理学療法国際事情
47	臨床工学	地域と大学	79	理学療法	応用理学療法学
48	臨床工学	生命倫理学	80	理学療法	理学療法概論
49	臨床工学	臨床実習	81	理学療法	見学実習
50	臨床工学	医用工学概論	82	理学療法	評価実習Ⅰ
51	臨床工学	特別講義Ⅰ	83	理学療法	評価実習Ⅱ
52	救急救命	公衆衛生学Ⅱ	84	理学療法	総合臨床実習
53	救急救命	地域と大学	85	理学療法	社会福祉学
54	救急救命	シミュレーションⅣ	86	理学療法	小児理学療法学
55	救急救命	臨床実習	87	作業療法	公衆衛生学Ⅰ
56	救急救命	救急・防災実習	88	作業療法	公衆衛生学Ⅱ
57	救急救命	救急車同乗実習	89	作業療法	地域と大学
58	健康福祉	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	90	作業療法	地域ケアシステム論
59	健康福祉	児童福祉論	91	作業療法	老年期障害作業療法学
60	健康福祉	カウンセリング	92	作業療法	見学実習
61	健康福祉	食品栄養学	93	作業療法	評価実習Ⅰ
62	健康福祉	食品製造学	94	作業療法	評価実習Ⅱ
63	健康福祉	地域福祉論	95	作業療法	総合臨床実習
64	健康福祉	社会福祉援助技術実習	96	作業療法	作業療法学概論
65	健康福祉	看護学実習	97	作業療法	生命倫理学
66	健康福祉	ボランティア活動	98	作業療法	社会福祉学
67	健康福祉	地域と大学	99	作業療法	地域生活作業療法学演習
68	健康福祉	社会福祉学	100	放射線	地域と大学
69	健康福祉	保健栄養学	101	放射線	生命倫理学
70	健康福祉	公衆衛生学Ⅱ	102	放射線	放射線治療技術学実習
71	理学療法	公衆衛生学Ⅰ	103	放射線	核医学検査技術学実習
72	理学療法	公衆衛生学Ⅱ	104	放射線	画像検査技術学実習
73	理学療法	地域と大学	105	放射線	特別講義Ⅰ
74	理学療法	生命倫理学	106	臨床心理	地域と大学
75	理学療法	高齢者理学療法学	107	臨床心理	心理基礎実習
76	理学療法	地域理学療法学	108	臨床心理	社会福祉学

以下52科目は学生と地域関係者がともに学び合うことができるように外部へ知の提供をしています。

【外部に開かれた科目】（52科目）

No.	学 部	科 目 名 称
1	総合政策学部	生活と法[春]
2		生活と法[秋]
3		刑法Ⅰ（総論）
4		刑法Ⅱ（各論）
5		時事問題研究B〔春〕
6		時事問題研究B〔秋〕
7		介護政策論
8		Global Health and Social Justice
9		出店戦略
10		租税法Ⅰ
11		租税法Ⅱ
12		中東・アフリカの政治・経済
13		国際会計論
14		健康社会学
15		医療経済学
16		Introduction to Global Health issues
17		Academic Writing 3〔2〕
18		国際経済学B（金融）／国際金融論Ⅰ
19		日本国憲法／法学B（日本国憲法）
20		経営学総論Ⅱ
21		国際政治経済学
22		家族法
23		メディア・コンテンツと法
24	外国語学部	日本文化論（中・観）
25		英語文学Ⅱ
26		地域圏研究Ⅲ（北米）
27		異文化コミュニケーション
28		日中比較文化論Ⅰ
29		日中比較文化論Ⅱ
30		アジアの文学・文化（韓）
31		地域圏研究Ⅱ（韓国）
32		実用英語演習Ⅰ
33		実用英語演習Ⅱ
34	観光学入門（英・中）	

No.	学部	科目名称
35	外国語学部	英語学演習Ⅰ
36		英語学特論Ⅲ
37		英語学演習Ⅳ
38		宿泊産業論
39		観光地理学
40		福祉観光論
41	保健学部	高齢保健学
42		カウンセリング
43		乳幼児・児童心理学
44		救命救助法
45		健康スポーツ科学（健福）
46		臨床心理学概論
47		老人福祉論
48		発達臨床心理学
49		生命倫理学（健福）
50		食品製造学
51		食品栄養学
52		食品衛生学

③ APプログラム（日英中トライリンガル育成のための高大接続）について

杏林大学は、平成26年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」テーマⅢ（高大接続）に採択され、令和元年度まで補助を受けながら事業を実施してきました。この事業は「APプログラム」と呼ばれていますが、APとはAcceleration Program（加速プログラム）の略語であると同時に、アメリカを中心に行われている高大接続の方式 Advanced Placement（アドバンストプレースメント：高校生に大学レベルの教育機会を提供し、入学後に大学の卒業に必要な単位として認定すること）の略語でもあります。

杏林大学が進めてきた事業の基本構想は、「日英中トライリンガル育成のための高大接続」です。これまで築き上げてきた高大連携を基盤として、単なる教育機会の提供に留まらず、グローバル人材育成という教育目標を共有する高等学校と連携しながら、教育内容、教育方法、教育成果の発展的連携・接続を図っています。

外国語学部は、この事業の中心的取組学部として、高校生に教育機会を提供する様々な事業を実施してきました。高校生へのグローバル関連科目のオープン化、日英中トライリンガルキャンプ、英語キャンプ、中国語キャンプ、スピーチ・プレゼンテーションコンテスト、セミナーなどグローバル人材になるという共通の目標を持った高校生と共に学ぶ機会が増えました。そうした機会でも、外国語学部生の皆さんは、先輩として、あるいはピアサポーター、ピアチューターとして、高校生の皆さんに模範を示しながら、自らもグローバル人材になるべく研鑽を積んでください。

また、APプログラムでは、ライティングセンターを設置しています。ライティングセンターでは、1対1のセッションで、レポートや論文、あるいは留学準備書類作成などについて教員やピアチューターと意見交換をし、文章を改善するためのアドバイスを得ることができます。グローバル人材になるべく英語のライティング力を高めたいと考えている人は、是非、積極的に利用してください。

UNIVERSAL PASSPORT 利用の手引き



注意事項

推奨する利用環境は次の通りです

OS: Windows2000 SP4 以上/WindowsXP SP2 以上/WindowsVISTA/Windows7

MacOS X 10.4(Tiger)以上

ブラウザ: Internet Explorer6.0 SP1 以上/Internet Explorer7.0 以上/Internet Explorer8.0

Mozilla Firefox 1.5.0.3 以上/Mozilla Firefox 3.6

使用するブラウザの[戻る][進む]ボタンは押さないでください。全て画面上のボタンで操作してください。何も操作せずに30分間経過すると自動的にログアウトとなりますので、その際は再度ログインし直してください。パスワード忘れによりログインできなくなった場合は、総合情報センターにお問い合わせください。

杏林大学 総合情報センター

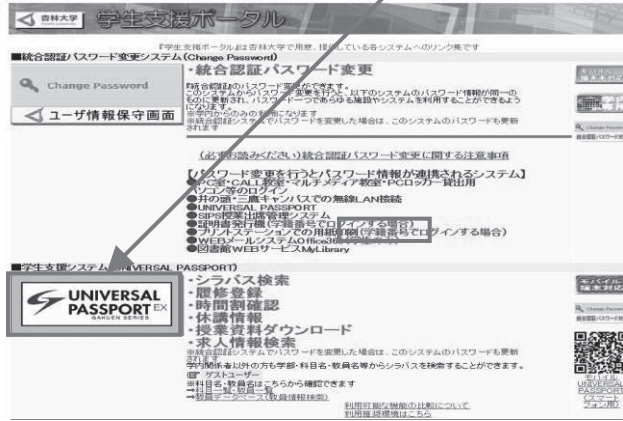
ログイン方法

杏林大学のホームページにアクセスします。 URL: http://www.kyorin-u.ac.jp

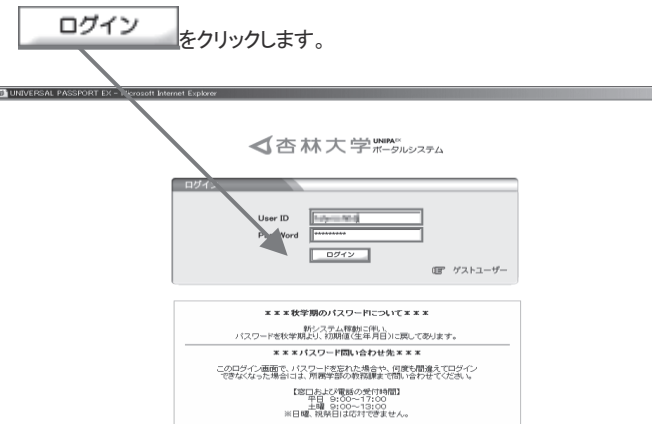


『学生支援ポータル』の画面が開きます。下記赤枠のアイコンをクリックします。

“セキュリティの警告”というメッセージが出ますので **OK** をクリックします。



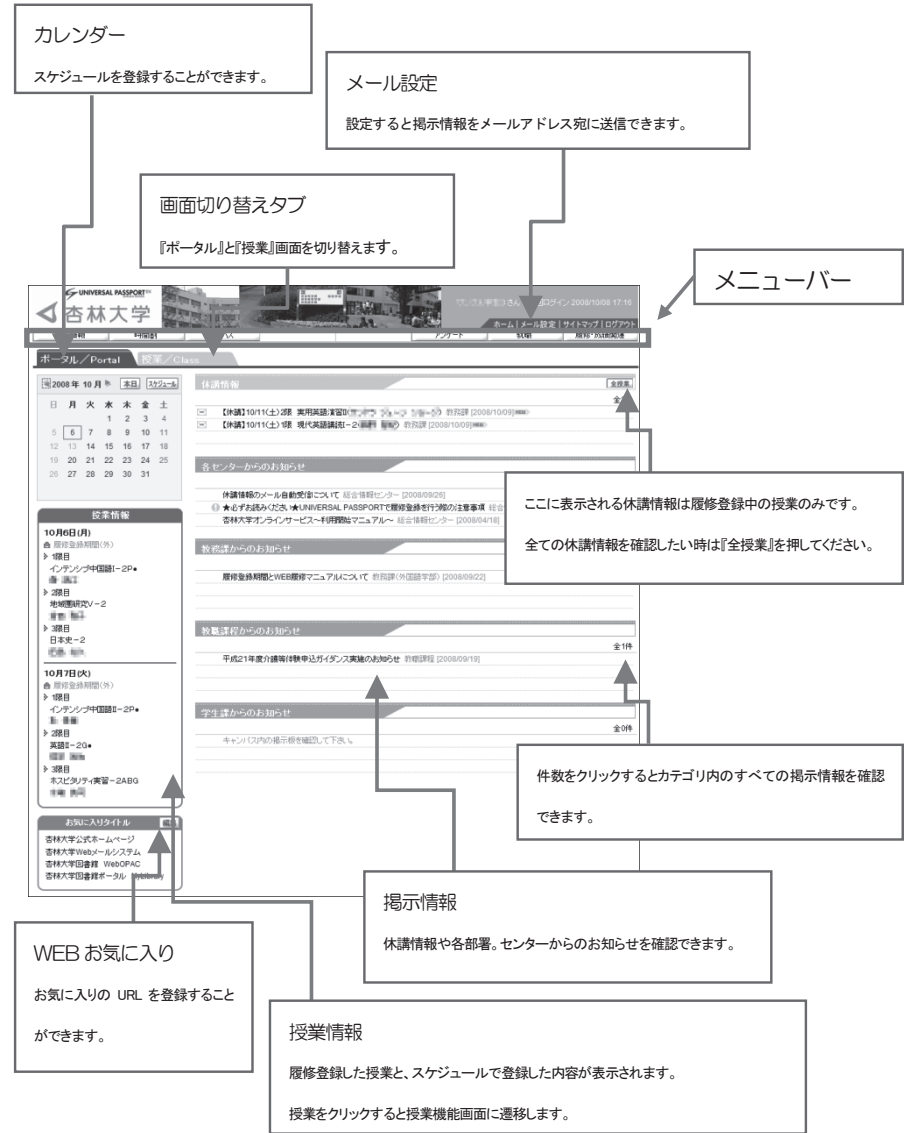
大学より事前に通知されている、User-ID と Password を入力します。



注意事項

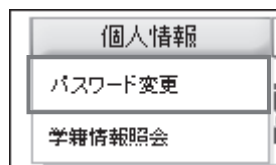
User-ID と Password は必ず半角文字を用いて入力を行ってください。
 なお、誤入力等により続けてログインに失敗するとパスワードが削除され、ログインできなくなります。ご注意ください。

■■ポータル画面について■■



■■パスワード変更■■

メニューバーの中の『個人情報』にカーソルを合わせパスワード変更を選択します。



- 現在のパスワード … 最初に配付されたパスワードを入力
 変更後 … 新しいパスワードを入力(半角文字で6~12文字)
 変更後(確認用) … 新しいパスワードを再度入力
 『更新』をクリックします。

パスワード変更

最終ログイン日時	2007年11月16日 10:17:02
パスワード変更日	2007年09月21日 11:04:19

必須	現在のパスワード	<input type="password"/>
必須	変更後	<input type="password"/>
必須	変更後(確認用)	<input type="password"/>

※パスワードは6文字以上12文字以内で入力してください

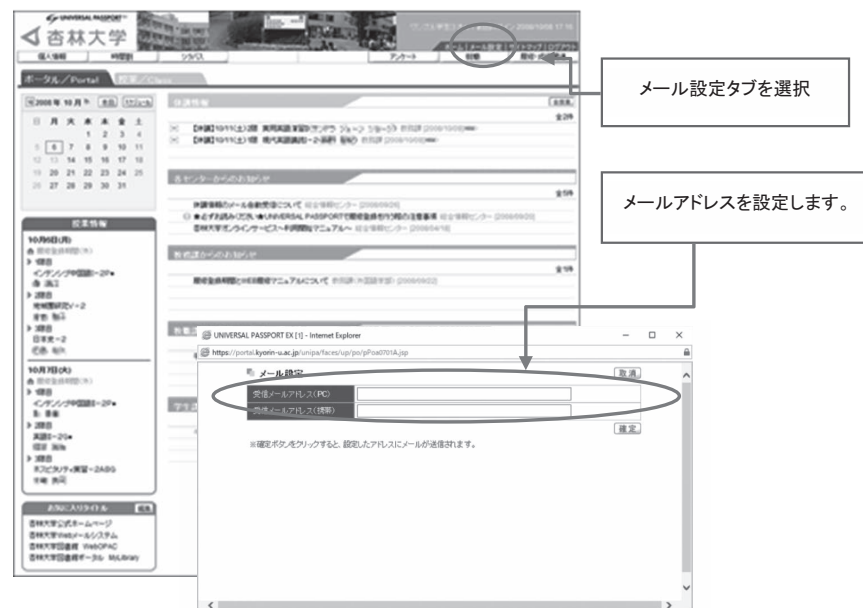
注意事項

変更後のパスワードは忘れないよう注意してください。

セキュリティ向上のため、パスワードはこまめに変更し、管理していただくことを推奨します。

■■メール設定について■■

各部署や授業についてのお知らせはユニバーサルパスポート上に掲載されるだけでなく、メールでも配信されます。必ずメールを受信できるように設定してください。

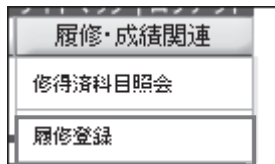


注意点

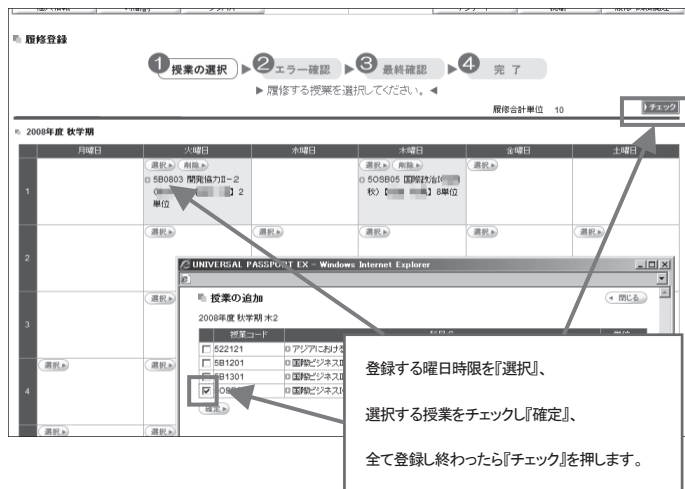
携帯キャリア（docomo、au等）が提供するメールアドレスはユニバーサルパスポートが配信するお知らせメールが届かないことがあります。Gmail 等お持ちのスマートフォンで受信できるアドレスの登録をお勧めします。

■■履修登録■■・・・【履修登録期間中のみ】

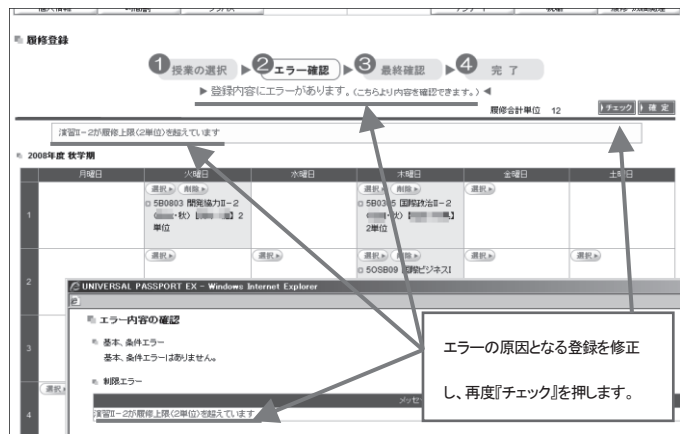
メニューバーの中の『履修・成績関連』にカーソルを合わせ履修登録を選択します。



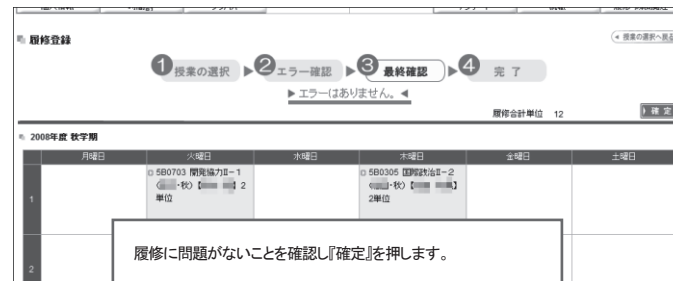
履修登録する授業を選択します。



《エラーがある場合》エラーメッセージが表示されます。



《エラーがない場合》「エラーはありません」と表示されます。



『確定』を押したら「履修登録が完了しました」と表示され、履修登録が完了となります。学生時間割表が出現しますので、印刷して保存しておくことができます。

注意事項

履修登録を行う際は所属学部の指示に従ってください。
 詳しくは別途配布される各学部の履修登録マニュアルを参照してください。

■ 時間割確認 ■

メニューバーの中の『時間割』にカーソルを合わせると、学生時間割表、教員時間割表、授業時間割表の選択メニューが表示され選択することで確認できます。



以下の3種類の時間割を確認できます。

『学生時間割表』・・・履修登録を行った学生自身の時間割の確認。

『教員時間割表』・・・教員の担当授業時間割の確認。

『授業時間割表』・・・大学で開講される全ての授業の確認(井の頭キャンパスのみ)。

『印刷』ボタンを押して時間割の印刷をすることができます。

科目名をクリックするとシラバスを確認することができます。